



衣裳・美術：伊藤佐和子 撮影：KEI OGATA

## COVER PHOTO

東京芸術祭2016 芸劇オータムセレクション

「かもめ」

10月29日(土)～11月13日(日)

プレイハウス

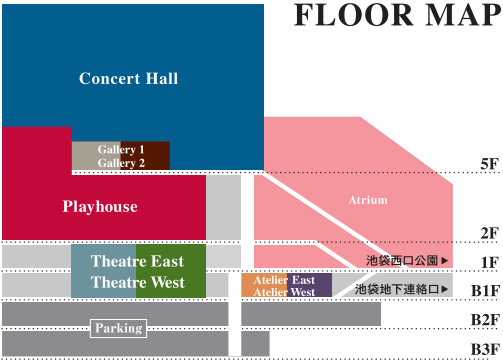
作：アントン・チェーホフ 翻訳・上演台本：木内宏昌 演出：熊林弘高

出演：満島ひかり／田中 圭／坂口健太郎／渡辺大知／あめくみちこ／

山路和弘／渡辺 哲／小林勝也／中嶋朋子／佐藤オリエ

# 東京 芸術 劇場

Tokyo  
Metropolitan  
Theatre



## FLOOR MAP

**1F** 東京芸術劇場ボックスオフィス  
(チケット・総合案内カウンター)

予約  
お問合せ | **0570-010-296**  
(休館日を除く10:00～19:00)

**5F** 託児サービス だっこルーム

東京芸術劇場でご鑑賞のお客様の  
お子様をお預かりします。(要予約)

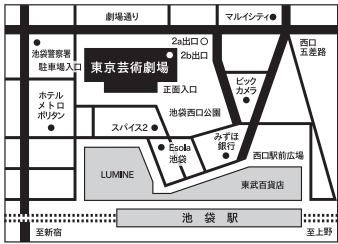
お問合せ | **03-3981-7003**  
(平日10:00～17:00)

**B2F・B3F** 東京芸術劇場駐車場

利用料金 | 300円/30分

営業時間 | 7:00～24:00

お問合せ | **03-6914-0019**



〒171-0021 東京都豊島区西池袋1-8-1

開館時間 | 9:00～22:00 (休館日を除く)

お問合せ | **03-5391-2111**

JR、東京メトロ、東武東上線、西武池袋線池袋駅西口より  
徒歩2分、池袋駅地下通路の2b出口に直結しています。

## 〈東京芸術劇場パートナー協賛企業・団体 ご芳名〉東京芸術劇場の年間事業運営に賛同し、ご支援してくださっている方々です。

アサヒグループホールディングス株式会社  
住友生命保険相互会社

Bloomberg L.P.

株式会社資生堂  
大和証券株式会社

キッコーマン株式会社  
住友化学株式会社  
トヨタ自動車株式会社  
明光義塾

株式会社イープラス  
ANAホールディングス株式会社  
株式会社エレベータシステムズ  
オルガノ株式会社  
香山壽夫建築研究所

国際興業株式会社  
三精テクノロジーズ株式会社  
サントリーホールディングス株式会社  
株式会社ジェイアール東日本ビルディング  
JXホールディングス株式会社  
西武鉄道株式会社  
ソニー銀行株式会社  
第一生命保険株式会社  
多摩美術大学  
株式会社帝国ホテル  
株式会社TBSテレビ  
株式会社テレビ朝日  
東京地下鉄株式会社  
株式会社東京ビッグサイト  
東京臨海熱供給株式会社  
東武鉄道株式会社

株式会社東武百貨店  
常盤興業株式会社  
凸版印刷三幸会  
西池袋熱供給 株式会社  
日本生命保険相互会社  
日本テレビ放送網株式会社  
日本電信電話株式会社  
びあ株式会社  
東日本旅客鉄道株式会社 池袋駅  
フジテック株式会社  
株式会社 フジテレビジョン  
HOTEL URBAN(ホテルアーバン)  
ホテルメトロポリタン  
株式会社マクロスジャパン  
株式会社 松田平田設計  
株式会社 松村電機製作所

丸茂電機株式会社  
三菱重工業株式会社  
株式会社三菱東京UFJ銀行  
ミュージックスタジオ・フォルテ  
ヤマハサウンドシステム株式会社  
養老乃瀧株式会社  
読売新聞東京本社  
立教大学  
株式会社ルミネ 池袋店  
レンゴー株式会社  
株式会社ローソンHMVエンタテイメント  
株式会社 WOWOW  
渡邊建設株式会社

他 匿名3法人  
2016年9月1日現在 (五十音順)

※東京芸術劇場では、パートナー協賛の申し込みを随時受け付けております。詳細は、公式HPをご覧ください。広報営業係担当まで直接お問合せください。 **Tel. 03-5391-2117**

## 芸劇 BUZZ

vol.17

2016年 10・11・12月号 《編集・発行》東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団) 《編集・デザイン》COM Works 《印刷》(株)技芸堂

平成28年9月25日発行

# 芸劇 BUZZ

TOKYO METROPOLITAN THEATRE EVENT INFORMATION

vol.17 2016  
10.11.12.



## ◆特集・PICKUP

東京芸術祭2016 芸劇オータムセレクション  
作 アントン・チェーホフ 演出 熊林弘高  
「かもめ」

国際共同制作 作 野田秀樹 演出 オン・ケンセン  
「三代目、りちゃあど」

作 W.シェイクスピア 演出 藤田貴大  
「ロミオとジュリエット」

りゅーとびあプロデュース  
「オフェリアと影の一座」

移動レストラン  
「ア・ラ・カルト」

東京芸術劇場シアターオペラ vol.10

全国共同制作プロジェクト  
プッチーニ／歌劇『蝶々夫人』

世界のマエストロシリーズ vol.4

ミシェル・プラッソン&読売日本交響楽団

前橋汀子デライト・コンサート vol.4／

第7回 音楽大学オーケストラ・フェスティバル／

ザ・フィルハーモニクス／

パリ木の十字架少年合唱団

## ◆CALENDAR

10月・11月・12月

大道芸／  
ストリートアーティスト・アカデミー／  
芸劇ウインド・オーケストラ  
アンサンブル演奏会 ほか

東京芸術祭2016  
フェスティバル/トーキョー16 ほか

東京芸術劇場 芸 術 監 督 **野田秀樹** 対 談 演出家 俳優 **ロベール・ルパージュ**



芸劇オータムセレクション

## かもめ

アントン・チャーホフ 作

木内宏昌 翻訳・上演台本 熊林弘高 演出

## このチャーホフに “かもめ”は出てこない

「(佐藤)オリエさんと(満島)ひかりちゃんと  
で、何かやりたいね」という言葉から  
スタートしたビッグな企画。

演出家・熊林弘高がチャーホフに挑む。

演出家・熊林弘高にとって、東京芸術劇場はホームグラウンドと言ってよさ  
そうだ。海外および日本の戯曲から作品を厳選し、勉強会を立ち上げ、俳優と  
対話を重ねて、戯曲の深層を掘り下げる。1年間に1,2作品の専作を支えるた  
めには、劇場からの協力も欠かせない。2014年「おそろべき親たち」、2015年  
「狂人なおもて往生をとぐ」とふたつの作品の上演を重ね、この演出家と東京  
芸術劇場との協働作業は軌道に乗ってきた印象を受ける。そして2016年、つ  
いにというべきか。熊林弘高は、東京芸術劇場プレイハウスにて、演劇史にそ  
の名を刻む戯曲の高峰、チャーホフの「かもめ」に挑む決意を固めた。

### 死骸も剥製もなし。現物のかもめは使わない

チャーホフが書いた4幕劇「かもめ」には、2回、現物のかもめが出てくる。  
一度目は2幕の中盤。猟銃で無残に撃ち落とされた死骸として。二度目は、ラ  
ストの4幕。2幕で撃ち落とされたかもめが、剥製となって。今回の演出では、  
その2度とも「現物のかもめを使わない」というプランらしい。「かもめ」を演  
出するのは今回で2回目、という熊林弘高は、一度目の死骸のかもめについ  
て、こう話す。

「以前やった「かもめ」(2004年)でよかったと思っているのは、現物のかもめ  
を出さなかったこと。真っ白な原稿用紙を、『かもめです』とした。無名のアマ  
チュア劇作家から小説家に出世するトレープレフ青年に帰属するものとしての  
原稿用紙。それは今回もやりたいと思います」

では、ラスト4幕の剥製のかもめはどうか。演出家には明確なプラン  
がある。繰り返す。かもめは使わない。

「二度目の剥製のかもめについて前回は台詞ごとカットして逃げましたが、  
今回は、新たに着想を得たことで、全体像が見えた。この着想に集約させて  
いくために、『かもめ』という物語が、どのようにしてそのラストまでたどり着  
くか。演出の挑戦ですね」

チャーホフは、苦くて哀しいこの戯曲の扉に「喜劇」と書いた。多くの演劇  
人を悩ましてきた二文字でもある。

「フランスの哲学者ベルクソンが言っていますよね。距離感を持って眺め  
ると、それはすべて喜劇になる、というような内容でしたが…」と言い、正確な



衣装・美術：伊藤佐智子 撮影：KEI OGATA

引用ができない、と断った演出家が、後日、わざわざメールでベルクソンの言  
葉を送ってくれた。メールにはこうあった。「引き離れてみたまえ、われ関せず  
の見物人となって生に臨んでみたまえ。多くのドラマは喜劇に変ずるであろ  
う」(ベルクソン「笑い」より。林 達夫・訳)。なるほど。演出家もまた、そのよ  
うな見物人になる仕事かもしれない。

### 満島ひかりのニーナを囲む、豪華な役者たち

片田舎の娘が、都会に出て女優を目指し、貧困生活に苦悶する。この戯曲  
を代表するキャラクター、ニーナには満島ひかり。ニーナの愛をもてあそぶ  
小説家トリゴーリンには田中圭。トリゴーリンを熱愛する大女優アルカージ  
ナに佐藤オリエ。大女優の息子トレープレフには、初舞台の坂口健太郎。そし  
て、トレープレフに片思いをするマーシャに中嶋朋子。脇を固める人材も確  
かだ。小林勝也、渡辺哲、山路和弘、あめくみちこといった花も実もある実力  
派に、バンド「黒猫チェルシー」の渡辺大知と、若い未知の可能性をも注入し  
ている。

「ご出演される方々は、いずれも第一希望の人ばかり。もう演出家はいらな  
いっていうくらい、すばらしいキャスティング」

いやいや、何を言いますか。21世紀の新しいチャーホフ・スタンダードの  
誕生に、期待しよう。

取材・文：タマカ冷郎

10月29日(土)～11月13日(日) プレイハウス 詳細はP10へ

作：アントン・チャーホフ 翻訳・上演台本：木内宏昌 演出：熊林弘高  
出演：満島ひかり／田中 圭／坂口健太郎／渡辺大知／あめくみちこ／山路和弘／  
渡辺 哲／小林勝也／中嶋朋子／佐藤オリエ

宮崎、松本、札幌、滋賀、相模原、豊橋公演あり 主催：東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)

### チャーホフ作「かもめ」あらすじ

ロシアの湖のほとりの仮設舞台で、劇作家を夢見る青年トレープレフは、  
粗削りな新形式の演劇を大女優の母の前で上演し、心に傷を残す失敗に  
終わる。この経験がふたりの人生を狂わせた。劇作家の卵トレープレフは  
失意のどん底に落ち、一方、主演を務めた若い娘のニーナは、本物の女優  
を目指して故郷を捨てる。仮設劇場を囲んだ人間たちが、縦糸に、横糸に  
なって織りなす、切ない人生模様。

芸劇オータムセレクション

国際共同制作 野田秀樹 作 オン・ケンセン 演出

## 三代目、りちゃあど

## シェイクスピアを解体した 野田秀樹を解体する

野田秀樹がシェイクスピアに作家としての

自身を重ねた幻の戯曲が、シンガポールの

俊英の手で甦る。グローバルな活躍でアジアを

代表する演出家オン・ケンセンにインタビュー。

「野田秀樹さんの舞台を初めて観たのは、1990年英国エジンバラ国際  
フェスティバルでの『半神』でした。もともと日本人向けに書かれたもので  
しょうから、日本独自の言葉遊びやカルチャーに被われていて、私には意味  
不明な部分もありましたけど、核にあるのがとてもユニバーサルなものであ  
ることは、はっきりわかりました。今回も、多言語・多文化のキャストが混在  
するパフォーマンスなので、ダジャレや九州弁のおもしろさは活かせません  
が、核心部分は伝わるはず。私の責任は、それを作品から漏らさず探り出す  
ことでした」

シンガポールを拠点に、多種多様な言語や文化背景を持つキャストによる  
作品を数多く手がけてきたオン・ケンセン。今回も日本とシンガポールの俳  
優に、インドネシアの影絵芝居ワヤン・クリのパフォーマーが加わる多彩な顔  
合わせで、1990年に初演されたきりの“幻の”野田戯曲『三代目、りちゃあど』  
に挑む。リチャード三世の史実と、シェイクスピアが創作した『リチャード三  
世』の世界に加え、劇作家シェイクスピアの日常生活までもが錯綜する多層  
構造。その枠組みの中で、劇作家と作中人物の関係から、歴史はどう描かれ  
てきたか、といった根元的な問いにまで至る、複雑で壮大な野田ワールドだ。

「戯曲にある歴史に関わるせりふを、どう提示すべきかについて、演出に  
着手する前に直接野田さんに質問しました。まず“歴史”というと、一党支配



撮影：石川 純

芸劇オータムセレクション

カミュー・ボワテル「ヨブの話」  
—善き人のいわれなき受難—

9月30日(金) 19:00

10月1日(土)・2日(日) 15:00

プレイハウス 詳細はP9へ

構成・演出・振付・出演：カミュー・ボワテル



©Oliver Chambrin

芸劇オータムセレクション

芸劇dance  
勅使川原三郎×山下洋輔「up」

10月7日(金) 19:30

8日(土)・9日(日) 16:00 プレイハウス

構成・振付・美術・照明：勅使川原三郎

出演：勅使川原三郎 佐東利穂子／山下洋輔

詳細はP9へ



Photo: [上] Jimmy & Dena Katz / [下] Bengt Wanselius



撮影：石川 純

のシンガポール政権下で育った私たちは、歪められた史実を“歴史”として  
学ばされた経験を、ベースに持っています。また一方では、数年前にリ  
チャード三世の遺骨が駐車場の下から見つかった、というリアルなニュース  
がありましたよね。ほんとうに背中が曲がっていたとかいなかったとか、ひ  
としきり話題になりました。このように、歴史が事実をどう反映させてきた  
かは、この作品の重要なポイントでもあるので、作者の意図を確認しておき  
たかったのです。野田さんの答えは、史実の正確な提示はさほど重要ではな  
いだろう、ということだったので、私は自分自身の“教科書は史実を正確に  
伝えない”という経験を、演出に反映させることにしました」

歌舞伎の中村吉太郎、狂言の茂山童司、宝塚出身の久世星佳、小劇場の  
江本純子など、日本勢だけでもそれぞれ演技スタイルが異なる上に、役の性  
別が逆転するなど、ジェンダーもフリー。野田の言葉遊びや疾走感に代わり、  
多様性を強調する演出で、作家(シェイクスピアおよび野田秀樹)の複雑  
な脳内を覗き込むようなカオスを醸成する。

「リチャード三世は狂っていたのかも知れず、言動が論理的に意味をなさな  
くなり、つねに論理と非論理の闘いのような状態になっていた人。作家も、  
自身の意に反して、論理を超えたものを産み出すことがあります。この作品  
の中でも、シェイクスピアと、そのシェイクスピアを描いている野田さんとも  
ども、自身のコントロールを超えて、作家として存在し続けられなくなる状  
況が描かれています。私は、そんな混沌とした作家の頭の中に観客のみなさん  
を引き込み、半分夢を見ているような、論理やせりふが消え去った、音楽  
や絵画のような世界を、現出させたかったのです。四半世紀前に書かれたこ  
の作品が現在に意味をなすように、空間と時間を使って新しい『三代目、り  
ちゃあど』を構築しました。野田さんがシェイクスピアを解体したように、野  
田秀樹を解体することが、私の使命ですからね」

文：伊達なつめ(演劇ジャーナリスト)

11月26日(土)～12月4日(日) シアターウエスト 詳細はP12へ

日本語・英語・インドネシア語上演／日本語・英語字幕付 熊本、吹田、高知、福岡公演あり  
作：野田秀樹 ウィリアム・シェイクスピア「リチャード三世」(小田島雄志訳)より  
演出：オン・ケンセン  
出演：中村吉太郎／茂山童司／ジャニス・コー／ヤヤン・C・ヌール／  
イ・カデック・ブディ・スティアワン／たきいみき／江本純子／  
久世星佳

主催：東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)  
アーツカウンシル東京(公益財団法人東京都歴史文化財団)



# ロミオとジュリエット

W.シェイクスピア 作 藤田貴大 上演台本・演出

## 二人はなぜ死に至ったのか、逆再生で検分する

野田秀樹の『小指の思い出』や寺山修司の『書を捨てよ町へ出よう』など名作戯曲を上演してきた演劇作家・藤田貴大が、初めてシェイクスピアに挑む。

### 逆再生で『ロミオとジュリエット』を演出する

きっかけとなったのは2年前、今は亡き演劇評論家・扇田昭彦との対談だった。『小指の思い出』の上演を前に、演出プランをめぐるトークイベントが開催されたのだ。

「そこで僕が話したのは、戯曲を一回解体して再構築することで、僕のリズムを作り出すってことだったんです。その話の流れで、『ロミオとジュリエット』をやるとしたら、二人が死ぬシーンを冒頭に持ってきて逆再生するかもしれないって話をしたら、ものすごく食いつかれたんですよ。それで本当にやることになったんです」

なぜ扇田さんはあんなに面白がってくれたのか——そこで思い至ったのは、「僕みたいな手つきの人間が挑むと面白ってことではないか」ということだ。

「これは忘れられがちなことですけど、ジュリエットは13歳でロミオは18歳なんです。いくら時代が違うとはいえ、そんなティーンの恋愛なんて拙いに決まってるじゃないですか。最後には死ぬってところに至ってしまうわけだけど、人ってそこまで振り切れてしまうことがある。その拙さっていうものは、僕がずっと描いてきたものでもある。『ロミオとジュリエット』を逆再生することで、それが如実になる気がする」



RooTS Vol.03 寺山修司生誕80年記念「書を捨てよ町へ出よう」より

撮影：寺山修司



「小指の思い出」より

撮影：扇田昭彦

藤田作品の特徴として挙げられるのは、同じ台詞やシーンを繰り返すりフレイムという演出だ。今年はシェイクスピア没後400年にあたるが、シェイクスピア作品も400年繰り返りフレイムされてきたと言える。

「シェイクスピアの作品ってもう、皆の頭の中にセットされてると思うんです。これまでの僕の劇だと、誰かがいなくなったということを繰り返し語ることによってその実像を描こうとしてきたんだけど、そのことは400年かけて既にやってくれている。そこに良い意味で甘えることで、二人が何で死んだのかってことを検分できる気がします」

### モザイク画から一つの絵へ

シェイクスピアに挑む上で、藤田が思い出すのは蜷川幸雄の存在だという。扇田昭彦との対談で『ロミオとジュリエット』の話を出したのも、蜷川幸雄が演出した『ロミオとジュリエット』を観た直後だったからでもある。

「蜷川さんはアングラから商業演劇に活躍の場を移したときに批判されるんだけど、批判されながら最初に描いたのは『ロミオとジュリエット』だったんです。それも僕の中ではつながっていて、何で蜷川さんはこの作品をやろうとしたのかってことも考えてますね」

今回、『ロミオとジュリエット』が上演されるのはプレイハウスだ。席数834席を誇るこのホールに藤田貴大が挑むのは『小指の思い出』以来となる。

「2年前は正直、プレイハウスの演出自体が精一杯だったんです。でも、あれから劇場の皆さんともいろいろ話し合ってきて、体制は整ったと思うんです。こないだ下見したときも、大きいと感じなかったんですよ。それに、去年の『書を捨てよ町へ出よう』で、コラボレーションをやりきったところがあって、今回はそれ以降の作業になる。これまでのコラボは、いろんな名前が並んでいて派手だったと思うんですよ。今回、新たに石橋英子さんや須藤俊明さんが音楽で関わってくれたり、衣装を大森伊佐子さんが担当してくれたり、名前のある方も関わってくれるんですけど、藤田作品の一部として動いてくれている。そうすると、モザイク画みたいな絵ではなくて、一つの絵としてコラボができる。今回の作品は、絶対に良いものになると確信してます」

取材・文：橋本倫史（ライター）

12月10日(土)～12月21日(水) プレイハウス 詳細は13Pへ

作：ウィリアム・シェイクスピア

チケット発売：10月15日(土)

上演台本・演出：藤田貴大

出演：青柳いづみ／あゆ子／石川路子／内堀律子／  
花衣／川崎ゆり子／菊池明明／小泉まき／  
後藤愛佳／西原ひよ／寺田みなみ／豊田エリー／  
中神 円／中村夏子／中村未来／  
丹羽咲絵／吉田聡子／山本達久

主催：東京芸術劇場（公益財団法人東京都歴史文化財団）  
東京都／アーツカウンシル東京（公益財団法人東京都歴史文化財団）



藤田貴大

©藤田貴大

### りゅーとぴあプロデュース「オフェリアと影の一座」

11月30日(水)～12月4日(日) プレイハウス

詳細はP12へ



### 水と油が混じり合うと

ぼくと小野寺修二は水と油だ。右を指させば、左を向き、上だといえば、座り込む。でもたちまち、罠にはまり、彼の描くイメージの虜になった。彼は油のような本を水で溶かすつもりなのだ。彼は今、不可能に挑む冒険者である。

ミヒヤエル・エンデの絵本「オフェリアと影の一座」は、演劇を真正面から取り上げた、大のつく傑作である。両親は産まれた子供に、オフェリアという世界一有名な芝居のヒロインの名前を与える・・・無限の夢と希望を込めて。でも小さな声しか出せない、オフェリアさんは女優の才能はさっぱりなし。劇場の片隅で、ブロンブターとして、セリフを囁き続けるうちに、年老い、時代に取り残され、世間からのけ者にされ、自分の居場所をなくしてしまう。そこに主人を持たない影たちが集まって来て一座を作る。なんせオフェリアさんの頭の中には古今東西の名台詞が入っている。そして影の一座による奇跡が始まる。

「白石加代子と影の一座」、影の使い手は小野寺修二。影の心に光が当たり、水と油が混じりあえば、声をもたない心から素晴らしいイメージが溢れだし、夢の時間が始まる。シルク・ドゥ・ソレイユも、ひとつ飛びである。

文：笹部博司（りゅーとぴあ演劇部門芸術監督）

原作：ミヒヤエル・エンデ（岩波書店刊） 上演台本：笹部博司 演出：小野寺修二

出演：白石加代子／旺なつき／彩吹真央／彩乃かなみ／真瀬はるか／館形比呂一／フィリップ・エマール／  
大庭裕介／辻田 暁／増井友紀子／藤田桃子／阿目虎南（大駱駝艦）／宮本正也（大駱駝艦）

主催：公益財団法人新潟市芸術文化振興財団  
共催：東京芸術劇場（公益財団法人東京都歴史文化財団）

### 移動レストラン「ア・ラ・カルト ー美味しいものは心を動かすところにあるー」

12月16日(金)～26日(月) シアターイースト

詳細はP14へ



撮影：北村光隆

演出：吉澤耕一 台本：高泉淳子 音楽監督：中西俊博

出演：高泉淳子／山本光洋／采澤靖起／中西俊博（ヴァイオリン）／竹中俊二（ギター）／プレント・ナッシー（ベース）

ゲストミュージシャン＝パトリック・ヌジェ（アコーディオン） 日替わりゲスト（50音順）：池田鉄洋／近藤良平／春風亭昇太／三谷幸喜／山田晃士／ROLLY

主催：有限会社遊機城 オフィス 共催：東京芸術劇場（公益財団法人東京都歴史文化財団）

### COMING UP NEXT 2017.1-3

演劇・ダンス ラインナップ

NODA・MAP 第21回公演

「足跡姫」～時代錯誤冬幽霊～

2017年1月18日(水)～3月12日(日) プレイハウス

作・演出：野田秀樹

チケット発売：12月10日(土)

岩井秀人と森山未来のコードモ発射プロジェクト

未来の大人と演劇はじめました(仮)

2017年2月18日(土)～3月12日(日)予定 シアターウエスト

チケット発売：12月17日(土)



東京芸術劇場シアターオペラvol.10  
全国共同制作プロジェクト  
プッチーニ／歌劇『蝶々夫人』  
《新演出》全幕 日本語字幕付原語上演

## 笈田ヨシ演出『蝶々夫人』は現代人の共感をよぶ

約半世紀にわたり俳優として、また演出家としてヨーロッパを中心に多彩な観客を魅了してきた笈田ヨシ。オペラ演出でも国際的に注目され、満を持して『蝶々夫人』に挑む笈田に話を聞いた。

長年パリに暮ら<sup>おいだ</sup>す笈田ヨシは、83歳を超えてなお舞台や映像の仕事で忙しい。正しい姿勢で足早に歩き、朗らかに笑う。初めての渡仏はピーター・ブルック演出のシェイクスピア作『テンペスト』（1968）に出演するためだった。創造性に富む演技は、百日に及ぶアットール作『鳥の会議』アフリカ巡業（1972～73）、インド古代叙事詩に基づく上演時間9時間の『マハーバーラタ』<sup>※1</sup>（1985）などの画期的なブルック作品を支え、『ピーター・ブルック回想録』<sup>※2</sup>でもその才能は讃えられた。

70年代になると演出家としても活躍、ベルリンの劇場に委嘱された三島由紀夫作『サド侯爵夫人』（1995）などで注目を集める。1998年にブリテン作曲『カーリユー・リヴァー』を南仏のエクサン・プロヴァンス音楽祭で演出した後は、次々とオペラを手掛けてきた。

だが、笈田は「オペラの素養は全くない」と語る。「譜面は読めないし、特別な音楽教育も受けていません。ただ、僕の演出したオペラを見た人たちに“音楽的な舞台”と言われました。若いときに習った義太夫や能楽の感覚が生きているのかもしれませんが、それに、子供のときから大好きだった歌舞伎は、音楽と舞踊と芝居がそろうところが、オペラに似ていますね」

2000年代にはマーラーの『大地の歌』やシューベルトの歌曲集『冬の旅』を、新鮮な音楽劇に構成。

「演出依頼は、『椿姫』や『トスカ』のようにいわゆる正統と呼ばれるオペラはあまりなく、創作ものが多いんです（笑）。今年ようやく『蝶々夫人』をスウェーデンのオペラハウスで演出しました」

2016年2月にスウェーデンのヨーテボリ歌劇場で初演を迎えたプッチーニ作曲『蝶々夫人』は、現地メディアでも高く評価された。

### アメリカ人とその文化を敬う蝶々夫人の姿は、僕自身の経験に重なる

「“観客の目を喜ばせながら、蝶々夫人とピンカートンの人格、および二人の関係を打ち出す舞台”という記事が嬉しかった。『蝶々夫人』は奥深いドラマで、アメリカの文化と自分の考えの間で人間がどう生きるか、と問いかけます。知らない文化をどこまで信じて、どこまで従うか、と蝶々は悩みました」

彼女の迷いは、12歳で終戦を迎えアメリカ主導の教育を受けた笈田が抱く複雑な感情につながる。

「アメリカは日本より素晴らしい、と思い込み、慣れ親しんだ宗教も家族も捨てた女性——それが僕の考える蝶々さん。アメリカ人とその文化を敬う姿



笈田ヨシ

は、僕自身の少年時代の経験に重なる。戦時中は日本のものが一番と教えた大人が、戦後はアメリカ文化を手本に掲げそれまでの日本文化を否定した。アメリカ人と付き合って良い服や食べ物を手に入れる街の娼婦に反発しながら嫉妬して、しだいに僕もアメリカに憧れました」

2017年の日本公演では、好評を博した先般のスウェーデン版から指揮者、歌手、オーケストラが変わるほか、笈田は演出を変え、美術・照明・衣装も改める。さらに翌年ニューヨークで演出予定の『蝶々夫人』は、プッチーニの曲に想を得て現代作曲家デヴィッド・ラングが新たに作る曲で、新演出に挑む。各々異なる3ヴァージョンの演出に取り組む理由を尋ねた。

「人は相手の出身地や年代に応じて、話し方を調節するでしょう。同じように、上演場所の環境に沿って、お客さんに僕の思いを伝わりやすくしたい。僕の目的は音楽、歌、身体の動きなどを通じて、人間の哀しさや不思議さを表現すること。“人間って面白いね、蝶々さんと私には共通点があるかな？”、そんな気持ちをお客さんにもって帰ってほしい」

幕が下りた後も観客の心を揺らす演出は、スウェーデン版の終盤で際立つ。ピンカートンの裏切りを知った蝶々夫人の行動は、さまざまに受け取れるのだ。果たして日本版はどうか、期待が高まる。もうひとつの楽しみは、笈田演出のシンプルな空間に流れる美。

「その美しさは、僕の手腕で成立させるものではありません……。いい舞台が生まれるのは音楽家、装置家、衣裳家、照明家たちが100パーセントの能力を発揮して、それらが化学反応を起こす時です。僕の役目は、作品に関わるアーティストたち全員が、自分の才能をじゅうぶん出せるように助けることです」

取材・文：桂 真菜（舞踊・演劇評論家）

※1）10年がかりで仕上げたジャン＝クロード・カリエール、ブルック共同翻案『マハーバーラタ』の初演はアヴィニョン演劇祭の石切り場。来日公演（1988、銀座セゾン劇場）も果たした。ブルック監督の同題の映画（1989）にも笈田は出演し、台本を翻訳して刊行（1987、木下長宏と共訳、白水社）。  
※2）『ピーター・ブルック回想録』（ピーター・ブルック著、河合祥一郎訳、白水社）

### プッチーニ／歌劇『蝶々夫人』あらすじ

19世紀末の長崎を舞台にした、プッチーニの代表的イタリア歌劇の一つ。アリア『ある晴れた日に』はつとに有名。アメリカ海軍士官のピンカートンは、異国の地、長崎で、元士族の娘である15歳の少女・蝶々さん（蝶々夫人）と結婚する。蝶々さんはピンカートンが去ってから彼の言葉を信じて帰りを待ち続けるが、3年後、長崎に戻った彼にはアメリカ人の妻がいることを知る。ピンカートンとの間に生まれた子供を彼とアメリカ人妻に託し、自らはある決断をする。



2月18日出演  
小川里美  
SATOMI OGAWA

各幕で変化していく蝶々さんに、どう感情移入するか。プッチーニが見た蝶々さん像も探したい。

東京芸術劇場のシアターオペラでは、『イリス』『こうもり』『メリー・ウィドウ』、そして『カルメン』のミカエラと、出演を重ねてきた小川里美さん。2005年にメゾからソプラノへと転向した経歴を持ち、高音ばかりでなく、中低音も充実。華やかな容姿と相まって蝶々さん役に大きな期待が寄せられている。『蝶々夫人』は、これまで、抜粋では演じた経験があるが、全曲を通しての舞台は初めてとなる。

**役柄について**——「蝶々さん役の一番の問題は、全幕を通してほとんど出ずっぱりなことです。1幕は若くハッピーで幸せを実感。2幕はピンカートンが帰ると信じて待つ。観ている方は哀しいのに、本人はそれを感じてはいけな、その複雑な明るさをどう表現するか。2幕後半は絶望をどこまで感じて歌えるか。ケイトが去って泣き崩れる場面も、どこまで感情移入するかがむずかしいですね」

**声について**——「登場シーンは音域が高く、最後の幕ではドラマチックさが求められる。1幕から2幕前半はしゃべるように歌う部分が多く、むずかしい役ですね」

**蝶々さん像について**——「抜粋で演じたとき、日本女性としての蝶々さん像が見えたように思いました。また先日スペインで『蝶々夫人』を観たとき、蝶々さんはとても純粋だけど、やはり芸者だったのだ、と感じた瞬間があり、蝶々さん像をもう一度考え直すきっかけになりました。日本のお客様が感じる日本らしさは出せても、プッチーニが感じたのはどんな蝶々さん像なのか。日本を題材にしたイタリア・オペラなので、いろんな要素が重なりますね」

**演出家・共演者について**——「『蝶々夫人』には、日本が世界に誇れる、栗山昌良先生、浅利慶太先生の完成された美しい舞台があります。今回の笈田さんの演出は、これまで観たことがない、非常に新しいものになるのでは、と期待しています。指揮者のバルケさんとは、以前一緒にしました。とても知的で明るい方なので、歌手の方とのコミュニケーションもお得意です。また以前何度も共演して、信頼し尊敬する先輩たちと一緒できるのが、とても楽しみです」

2月18日(土)・19日(日) 14:00開演 コンサートホール

詳細はHPへ

指揮：ミヒャエル・バルケ 演出：笈田ヨシ  
出演：蝶々夫人：小川里美（18日）・中嶋彰子（19日）／スズキ：鳥木弥生／ケイト・ピンカートン：サラ・マクドナルド／ピンカートン：ロレンツォ・デカロー  
シャープレス：ピーター・サヴィッツ／ゴロー：晴 雅彦／ヤマドリ：牧川修一／ボンゾ：清水那由太／役人：猿谷友規／いとこ：熊田祥子 ほか  
管弦楽：読売日本交響楽団 合唱：東京音楽大学

【他会場公演】金沢：金沢歌劇座／大阪：フェスティバルホール／高崎：群馬音楽センター



2月19日出演  
中嶋彰子  
AKIKO NAKAJIMA

日本では初となる蝶々さん役、歌うだけでなく演じることが重要。まさに体力勝負です。

15歳で海外に渡り、その後ヨーロッパの歌劇場で活躍を続けてきた中嶋彰子さん。近年は日本の良さ、日本文化のすばらしさを再認識しているという。『蝶々夫人』は10年以上もあためて来た役で、研究も重ねている。満を持して、日本で初めて取り組む蝶々さん役。新しい独自の蝶々さん像が期待できる。

**役柄について**——「蝶々さんは海外で一度、ウィーン郊外のシュタイヤー音楽祭で歌いました。これまで日本では、新国立劇場でのモーツァルトなど数作に出演しましたが、プリマドンナが主役のオペラは歌っていない。この公演はまさにチャレンジです」

**声について**——「蝶々さんを歌うソプラノは、強い声の人が多いのですが、プッチーニが意図したのは、はたしてそうなのでしょうか。これまで声の面で、自分には歌えないと思っていましたが、やっと最近になってできるのではないかと、考えるようになりました。この役のむずかしさは、極端な高音と低音が必要で、とくに低音を効かせないといけない。いま低音のトレーニングに励んでいます」

**蝶々さん像について**——「これまで海外での生活が多かったので、着物のさばき方とか所作の面でむずかしいと思っていました。最近お能や歌舞伎の先生の指導を受け、何とかできるかなと思っています。蝶々さんは2幕が大事で、知的な面をしっかり演じて、役柄に深みを与えたい。また歌うことと共に演じることが重要な役です。一晩で蝶々さんの一生をきちんと伝えられるかが鍵となると思います。とある東洋の女性が、あの時代のなかで、最後まで愛に生きるという役です。心が純粋で、信じることを通す女性。まさに究極の役なので、命がけでやらないといけません。歌うだけでなく舞台上で演じるのは体力勝負。いま、毎日走って体を鍛えています」

**演出家・共演者について**——「笈田さんは国際的な日本人で、オペラのなかの日本人を理解した人です。しかも役者の立場で分析して演出ができる方。指揮者も共演者も今回は初めてですが、オペラはチームワーク。みんなと一緒に創り上げていくのを、楽しみにしています」

取材・文：石戸谷結子（音楽評論家）



©KeiIesugi

主催：東京芸術劇場（公益財団法人東京都歴史文化財団） 事業提携：読売日本交響楽団  
共同制作：公益財団法人金沢芸術創造財団／公益財団法人石川県音楽文化振興事業団／  
関西テレビ放送／フェスティバルホール（朝日ビルディング）／公益財団法人高崎財団



世界のマエストロシリーズ vol.4

# ミシェル・プラッソン & 読売日本交響楽団

## フランス音楽の使徒 プラッソンがいざなう、 古き良き時代の響き

爛熟した近代フランス文化の香りを知る

最後の巨匠、ミシェル・プラッソン。

齢83歳となる彼が、芸劇の招きに応じ、

一夜限りの来日公演でその腕を揮う。

妖しくも精妙な調べ、かぐわしい音色を紡ぐマエストロのなかのマエストロ、ミシェル・プラッソンがやってくる。しかもファンの声援も熱い読売日本交響楽団との初顔合わせ。近年、フランス人シェフ、シルヴァン・カンブルランのタクトに導かれ、創造の翼を広げつつある読響にとっても歴史的なステージとなるのではないか。

フランス音楽の使徒プラッソン。オペラとシンフォニーの両輪でキャリアは半世紀に及ぶ。「オペラ」のところには、バレエ音楽と劇音楽も添えるべきだろう。「シンフォニー」のところには、もちろん、内に外に烈しい交響詩も入ってくる。

1960年代の中葉から南仏トゥールーズ・キャピトル管弦楽団に寄り添い、育て、彼らのあでやか、つややかな響きを世界の音楽好きに紹介してきた。昔話をお許しあれ。2001年の晩秋、プラッソンは、愛してやまないトゥールーズのオーケストラと東京でラヴェル名曲選を披露した。それも3公演。そのひとつで「道化師の朝の歌」と「スペイン狂詩曲」という、私たちにとてもおなじみのレパートリーを粹に奏でた後、プラッソンは、時計屋の女房と男たちの駆け引きをコミカルかつ妖艶に描いた歌劇「スペインの時」に腕を揮い、会場を狂喜乱舞させた。作品に語らせつつ、アンサンブルの要所を、フレーズの句読点を独特の息づかいで指し示すマエストロ。オペラと言えば、東京二期会での「ホフマン物語」（2013年）は記憶に新しい。その前には「ファウストの劫罰」もあった。パリ管弦楽団との飛翔（2005年の好ましいステージ）を含めて、この人のライブにはいい思い出しかない。

音楽の色気に型、いや匂いまでもお任せあれのプラッソン。まさにフランス音楽の使徒だった。ここぞという場面で即興的なタクトを披露したとしても、演奏のスタイルや方向性をいらずに崩さない指揮台の紳士、と評することも出来るだろう。ドレスデン・フィルハーモニー管弦楽団とも相愛



指揮者 ミシェル・プラッソン

だった。2016年春は、東京の新国立劇場でマスネの傑作「ウェルテル」を指揮するはずだったが、これはキャンセルとなった。

振り返るのはここまで。近代フランス音楽の系譜を映し出す、10月29日の美しいプログラムを見よ。

待ち遠しいコンサートは、“牧神の午後”をイメージしたフルートの、あの夢幻の調べで始まる。詩人マラルメの世界に浸るべく、ドビュッシーは最初の音高に、下降する音階にこだわった。アンティーク・シンパルの響きがホールにこだまする頃、早くも私たちは異次元へ誘われるのではないか。

そんなドビュッシーと鬼才つながりで親しかったサティの名劇曲も好ましいアクセントとなる。時間の経過とともに表情を変えゆく「海」と叙情派フォーレの「ベレアスとメリザンド」は、巨匠からの贈り物。光彩きらめくクライマックスが、詩情に満ちた歌が東京芸術劇場の空間を満たす。鳥木弥生のステージ・プレゼンスに喝采を。

管の筆致も楽しいラヴェルの佳品「古風なメヌエット」というグラニテ、ソルベを経て、プログラムは何と「ボレロ」で締めくくられる。好調読響との交歓、相乗効果は、さて。「幕切れ」の豪胆な転調と崩壊の美学まで、聴きどころは尽きない。

文：奥田佳道（音楽評論家）

**10月29日(土) 15:00開演 コンサートホール** 詳細はP10へ

指揮：ミシェル・プラッソン 管弦楽：読売日本交響楽団

～オール・フランス・プログラム～

ドビュッシー／牧神の午後への前奏曲、交響詩『海』  
サティ(ドビュッシー編曲)／『ジムノペディ』第1番、第3番  
フォーレ／組曲『ベレアスとメリザンド』op.80

\*メゾ・ソプラノ：鳥木弥生

ラヴェル／古風なメヌエット、ボレロ

主催：東京芸術劇場（公益財団法人東京都歴史文化財団）、豊島区



鳥木弥生

### パリ管弦楽団

**11月24日(木)・25日(金) 19:00開演****コンサートホール**

詳細はP12へ

指揮：ダニエル・ハーディング ヴァイオリン：ジョシュア・ベル 管弦楽：パリ管弦楽団

**11月24日 (木)**ブリテン／オペラ《ピーター・グライムズ》から 4つの海の間奏曲  
ブラームス／ヴァイオリン協奏曲 二長調 op.77  
ベルリオーズ／劇的交響曲「ロメオとジュリエット」 op.17から(抜粋)

主催：KAJIMOTO 提携：東京芸術劇場（公益財団法人東京都歴史文化財団）

**11月25日 (金)**東京芸術劇場2016-2017海外オーケストラシリーズ  
メンデルスゾーン／ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 op.64  
マーラー／交響曲第5番 嬰ハ短調

主催：東京芸術劇場（公益財団法人東京都歴史文化財団）



ダニエル・ハーディング



ジョシュア・ベル

**前橋汀子 デイライト・コンサート Vol.4**

～10人編成の弦楽アンサンブルと～

**11月9日(水) 11:30開演 コンサートホール**

詳細はP11へ



©権山紀信

## 平日の昼、気軽にヴァイオリンの名曲を聴いてみませんか？

クラシック音楽をもっと身近に、多くの人に聴いてもらいたいという本人の想いから始まったデイライト・コンサートも今年で第4回目を迎えます。

今回は弦楽アンサンブルとの共演で、J.S.バッハの「G線上のアリア」をはじめとしたヴァイオリンの名曲小品はもちろん、ヴィヴァルディの「四季」や、エルビス・プレスリー、エディット・ピアフの名曲で紡ぐ愛のメドレーをお届けします。公演時間は約1時間なので、ショッピングやランチ、待ち合わせの前にもでもヴァイオリンの名曲を聴いてみませんか？

ヴァイオリン：前橋汀子

弦楽アンサンブル：森下幸路（コンサートマスター、ヴァイオリン） ほか

主催：KAJIMOTO

提携：東京芸術劇場（公益財団法人東京都歴史文化財団）

**東京芸術劇場&ミューザ川崎シンフォニーホール共同企画 第7回音楽大学オーケストラ・フェスティバル****11月20日(日)・12月10日(土) 15:00開演 コンサートホール**

詳細はP12・13へ



## 選んで聴くか？ 全公演制覇か？ 音大オケの競演

首都圏の9音大と公共ホール2館が連携して毎年開催している「音楽大学オーケストラ・フェスティバル」。今年もその季節がやってきた。音大間の交流と協力を目的に謳っているが、同じステージでの「競演」が刺激となり、プロ顔負けともいえるハイレベルな演奏が繰り広げられることも。各校その年の「勝負曲」で臨むので、プログラムも大曲が並び聴き応え満点。演奏前に共演校が贈る、作曲専攻学生によるオリジナルのファンファーレにも注目したい。今年はどんな感動に出逢えるだろう。聴き比べを楽しみながら、音大生たちの熱演にエールを！

文：吉田雅之

東京芸術劇場コンサートホール：11月20日(日)上野学園大学&amp;武蔵野音楽大学&amp;東京藝術大学／12月10日(土)東邦音楽大学&amp;洗足学園音楽大学

ミューザ川崎シンフォニーホール：11月23日(水・祝)桐朋学園大学&amp;昭和音楽大学／12月3日(土)国立音楽大学&amp;東京音楽大学

主催：音楽大学オーケストラ・フェスティバル実行委員会／ミューザ川崎シンフォニーホール（川崎市文化財団グループ）／東京芸術劇場（公益財団法人東京都歴史文化財団）

## ザ・フィルハーモニクス

**12月9日(金) 19:00開演 コンサートホール**

詳細はP13へ



## 極上の音楽アドヴェンチャー

ウィーン・フィル、ベルリン・フィルをはじめとする超一流の奏者7人が、超絶技巧を繰り広げリミットなしの音楽を鳴り響かせるザ・フィルハーモニクス。クラシックの王道からオペラ、ジャズ、ラテンや民族色鮮やかな音楽を、最高の響きに乘せて生き生きと奏でていく。聴いているこちらまで、思わず踊りだしてしまうほど。今回は、心弾むクリスマスの音楽を揃えてやってくる。ザ・フィルハーモニクスが贈る極上の音楽アドヴェンチャーは、ひと足早いクリスマス・プレゼントになりそうだ。

出演：ザ・フィルハーモニクス

（1stヴァイオリン：ティボール・コヴァーチ／2ndヴァイオリン：セバスティアン・ギュルトラー／ヴィオラ：ティロ・フェヒナー／  
チェロ：シュテファン・コンツ／コントラバス：エーデン・ラーツ／  
クラリネット：ダニエル・オッテンザマー／ピアノ：カールマーン・チェーキ）

主催：ジャパン・アーツ

提携：東京芸術劇場（公益財団法人東京都歴史文化財団）

## パリ木の十字架少年合唱団

**12月20日(火) 19:00開演 コンサートホール**

詳細はP14へ



## ファン待望の7年ぶり日本公演～天使たちが帰ってくる！

1957年の初来日以来、定期的に日本を訪れ、「パリ木」の愛称で親しまれているパリ木の十字架少年合唱団。その名の通り、おそろいの白いローブの上に平和の祈りを意味する木の十字架をつけ、美しい歌声と愛らしさでファンを魅了してきた。ローマ教皇ヨハネ23世に「私の小さな平和の使徒」と呼ばれた合唱団は、今や世界80か国以上で公演を行っている。今回は7年ぶりの来日、彼らを待ち望んでいた多くのファンの前で再び清らかな歌声を披露してくれる。彼らの真骨頂であるフランスの宗教作品を中心としたレパートリー。ぜひクリスマスにふさわしい心洗われる時間を！

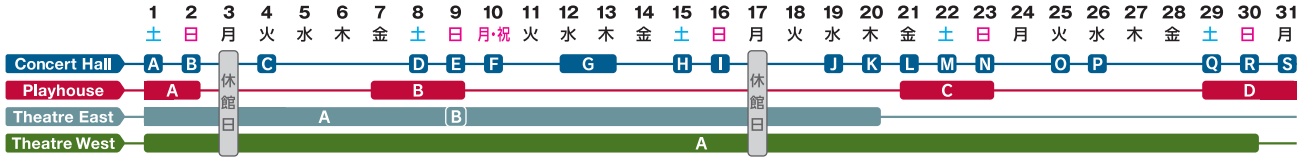
合唱：パリ木の十字架少年合唱団 音楽監督：オルガン：ユーゴ・ギュティエレス

主催：ムジカキラ

提携：東京芸術劇場（公益財団法人東京都歴史文化財団）



10  
OCT



Concert Hall 音楽略号:指揮(Cond)ノソプラノ(S)メソソプラノ(Ms)ノアルト(A)ノテノール(T)バリトン(Br)バス(Bs)ノコーラス(Chor)ノヴォーカル(Vo)ノピアノ(Pf)ノチェンバロ(Cemb)ノオルガン(Org)ノヴァイオリン(Vn)ノ

ヴィオラ(Va)ノチェロ(Vc)ノコントラバス(Cb)ノハーブ(Hp)ノフルート(Fl)ノクラリネット(Cl)ノオーボエ(Ob)ノファゴット(Fg)ノサクソフォーン(Sax)ノホルン(Hr)ノトランペット(Tp)ノトロンボーン(Tb)ノチューバ(Tub)ノユーフォニアム(Euph)ノティンパニ(Timp)

**A** 1日(土) 14:00開演 BOX

東京ニューシティ管弦楽団 第107回定期演奏会

出演 ジャンルカ・マルチアーノ(Cond)ノアンドレイ・ググニン(Pf)ノ東京ニューシティ管弦楽団  
曲目 チャイコフスキーノ歌劇『エフゲニー・オネーギン』からポロネーズピアノ協奏曲第1番  
幻想的序曲『ハムレット』  
幻想的序曲『ロメオとジュリエット』  
料金 S:6,500円ノA:5,000円ノB:3,500円ノC:2,500円  
問合せ 東京ニューシティ管弦楽団 03-5933-3266

**B** 2日(日) 12:45開式

東京芸術劇場Presentsプラスウィーク2016  
バンドクリニック「中・高生のための楽しい吹奏楽」

講師 宮川彬良(Cond)ノ平原まこと(Sax) ほか  
料金 クリニック参加費500円(事前申込制)  
問合せ 東京芸術劇場 事業企画課 プラスウィーク担当 03-5391-2114

**C** 4日(火) 19:00開演

早稲田大学交響楽団 秋季演奏会

出演 寺岡清高(Cond)ノ早稲田大学交響楽団  
曲目 R.シュトラウスノ楽劇『サロメ』より「7つのヴェールの踊り」、  
交響詩『ティル・オイレンシュピーゲルの愉快ないたずら』  
三善 晃ノマリナバと弦楽合奏のための協奏曲  
チャイコフスキーノ交響曲第4番  
料金 S:3,000円ノA:2,500円ノB:2,000円  
問合せ 早稲田大学交響楽団事務局 03-3204-3585

**D** 8日(土) 14:00開演 BOX

読売日本交響楽団  
第192回土曜マチネーシリーズ

出演 シルヴァン・カンブルラン(Cond)ノマルティン・シュタットフェルト(Pf)ノ読売日本交響楽団  
曲目 ラモーノ「カストールとポリュックス」組曲  
モーツァルトノピアノ協奏曲第15番 K.450  
シューベルトノ交響曲第8番「グレイト」  
料金 S:7,500円ノA:5,500円ノB:4,500円ノC:3,500円  
問合せ 読響チケットセンター 0570-00-4390

**E** 9日(日) 14:00開演 BOX

読売日本交響楽団  
第192回日曜マチネーシリーズ

出演 シルヴァン・カンブルラン(Cond)ノマルティン・シュタットフェルト(Pf)ノ読売日本交響楽団  
曲目 ラモーノ「カストールとポリュックス」組曲  
モーツァルトノピアノ協奏曲第15番 K.450  
シューベルトノ交響曲第8番「グレイト」  
料金 S:7,500円ノA:5,500円ノB:4,500円ノC:3,500円  
問合せ 読響チケットセンター 0570-00-4390

**F** 10日(月・祝) 14:30開演

菅野祐悟シンフォニック・コンサート2016

出演 曾我大介(Cond)ノ菅野祐悟(Pf)ノ東京ニューシティ管弦楽団  
曲目 菅野祐悟ノ『花咲舞が黙ってない』より「花咲舞が黙ってない」  
『昼顔』より「Never Again」  
『PSYCHO-PASS』より「PSYCHO-PASS Symphony」ほか  
料金 【全席指定】前売:5,500円ノ当日:6,000円  
問合せ 東京市協 03-5774-3030

**G** 12日(水)、13日(木) 19:00開演 BOX

日伊修好150周年記念  
歌劇「ジャパン・オルフェオ」

出演 アーロン・カルベネ(Cond)ノジャパン・オルフェオ管弦楽団  
曲目 モンテヴェルディノオルフェオ  
沼尻竜典(第5幕)作曲補筆(世界初演)  
料金 SS:23,000円ノS:20,000円ノA:17,000円ノB:14,000円ノC:11,000円ノD:8,000円  
問合せ 友情の架け橋音楽国際親善協会 03-6380-8963

**H** 15日(土) 14:00開演 BOX

東京都交響楽団  
第816回定期演奏会Cシリーズ

出演 下野竜也(Cond)ノ鈴木 学(Va)ノ東京都交響楽団  
曲目 ペンデレツキノ『ポーランド・レクイエム』より  
「シャコンヌ」(1984/93/2005)  
武満 徹ノア・ストリング・アラウンド・オータム(1989)  
チャイコフスキーノ交響曲第5番  
料金 S:6,500円ノA:5,500円ノB:4,500円ノC:3,500円ノEx:2,500円  
問合せ 都響ガイド 03-3822-0727

**I** 16日(日) 13:30開演ノ18:00開演

ゼルダの伝説 30周年記念コンサート

出演 竹本泰蔵(Cond)ノ東京フィルハーモニー交響楽団  
料金 マスターシート:12,000円ノS:9,000円ノA:7,500円  
曲目 ディスクガレージ 050-5533-0888

**J** 19日(水) 11:00開演 BOX

芸劇 ブランチ・コンサート  
～清水和音と八塩圭子の名曲ラウンジ～  
第4回「フルート&ハーブ奏者は美人じゃないと駄目?」

出演 清水和音(Pf)ノ八塩圭子(ナビゲーター)ノ竹山愛(Fl)ノ吉野直子(Hp)ノ佐々木亮(Va)  
曲目 グルックノ精霊の踊り  
ブーランクノフルートとピアノのためのソナタ  
ドビュッシーノフルート、ヴィオラとハーブのためのソナタ  
料金 【全席指定】2,200円  
問合せ サンライズプロモーション東京 0570-00-3337

**K** 20日(木) 19:00開演 無料

海上保安庁音楽隊 第23回定期演奏会

出演 稲垣征夫(Cond)ノ海上保安庁音楽隊  
曲目 ソアリング・ウィズ・ジョン・ウィリアムズノ行進曲「猫を上げて」、オリエント急行 ほか  
料金 無料(事前申込制) ※募集は終了しました。  
問合せ 海上保安庁政策評価広報室 03-3591-6361

**L** 21日(金) 19:00開演 BOX

青島広志のハロウィーンがやって来た!

出演 青島広志(Cond)ノ川口兄弟(川口晃祐、川口智輝)(Pf)ノ東京ニューシティ管弦楽団  
曲目 第一部:オペラとバレエの「魔法」  
モーツァルトノ「魔笛」より「序曲」  
グルックノ「オルフェオとエウリディーチェ」より「精霊の踊り」  
チャイコフスキーノ「白鳥の湖」より「情景」「ナボリの踊り」 ほか  
第二部:楽しいお化けたち  
リストノ死の舞踏  
サン＝サーンスノ『動物の謝肉祭』より  
ストラヴィンスキーノ「火の鳥」より  
料金 【全席指定】5,500円  
問合せ 東京ニューシティ管弦楽団 03-5933-3266

**M** 22日(土) 17:30開演

東京芸術劇場バイオルガン・コンサートVol.21  
エドガー・クラップ オルガン・リサイタル

出演 エドガー・クラップ(Org)  
曲目 J.S.バッハノ前奏曲とフーガ ニ長調 BWV532  
トリオ・ソナタ 第5番 八長調 BWV529  
パッサカリア 八短調 BWV528  
レーガーノグロリア Op.59-8  
ベネディクトゥス Op.59-9  
テ・デウム Op.59-12  
カンツォーネ Op.65-9  
交響的幻想曲とフーガ Op.57 「地獄」  
料金 【全席指定】一般:3,000円ノペア券:5,000円ノ25歳以下:2,000円  
※ペア券と25歳以下チケットは前売販売のみ取扱い。  
※25歳以下チケットは、東京芸術劇場ボックスオフィスのみ取扱い。  
公演当日チケット引換時要証明書提示。  
問合せ 東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296

**N** 23日(日) 15:00開演 BOX

八神純子 with 宮川彬良  
シンフォリズムックコンサート  
～歌が呼んでる～

出演 宮川彬良(Cond、Pf)ノ八神純子(Vo)ノ東京ニューシティ管弦楽団  
曲目 シンフォニック・マンボNo5ノ宇宙戦艦ヤマトノサウンド・オブ・ミュージックノみずいるの雨ノパープeltaウンノ約束ノ歌が呼んでる ほか  
料金 S:7,000円ノA:6,000円ノB:5,000円ノ高校生以下:1,000円  
問合せ Ro-Onチケット 047-365-9960

**O** 25日(火) 19:00開演 BOX

東京芸術劇場バイオルガン・コンサートVol.21  
エドガー・クラップ オルガン・リサイタル

出演 エドガー・クラップ(Org)  
曲目 J.S.バッハノ前奏曲とフーガ ニ長調 BWV532  
トリオ・ソナタ 第5番 八長調 BWV529  
パッサカリア 八短調 BWV528  
レーガーノグロリア Op.59-8  
ベネディクトゥス Op.59-9  
テ・デウム Op.59-12  
カンツォーネ Op.65-9  
交響的幻想曲とフーガ Op.57 「地獄」  
料金 【全席指定】一般:3,000円ノペア券:5,000円ノ25歳以下:2,000円  
※ペア券と25歳以下チケットは前売販売のみ取扱い。  
※25歳以下チケットは、東京芸術劇場ボックスオフィスのみ取扱い。  
公演当日チケット引換時要証明書提示。  
問合せ 東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296

**P** 26日(水) 19:00開演 BOX

パリ国立オペラ座少年少女合唱団  
May'n Symphonic Concert  
「TWENTY for SEVEN」

出演 大崎慶子(音楽監督)ノMay'n(Vo)ノ東京ニューシティ管弦楽団  
料金 【全席指定】7,000円  
問合せ レキップ・トロワ 03-3470-8833

**Q** 29日(土) 15:00開演 BOX

世界のエストロシリーズ vol.4  
ミシェル・プラッソン&読売日本交響楽団  
～歌が呼んでる～

出演 ミシェル・プラッソン(Cond)ノ鳥木弥生(Ms)ノ読売日本交響楽団  
曲目 ～オール・フランス・プログラム～  
ドビュッシーノ牧神の午後への前奏曲  
サティ(ドビュッシー編曲)ノ『シムノペディ』第1番、第3番  
ドビュッシーノ交響詩『海』  
フォーレノ組曲『ペレアスとメリザンド』  
ラヴェルノ古風なメヌエット、ボレロ  
料金 S:6,500円ノA:5,500円ノB:4,500円ノC:3,500円ノD:2,500円  
問合せ 東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296

**R** 30日(日) Closed・関係者のみ

パノナグループ40周年記念コンサート

**S** 31日(月) 19:00開演 BOX

ハンガリー国立フィルハーモニー管弦楽団

出演 小林研一郎(Cond)ノ松田理奈(Vn)ノハンガリー国立フィルハーモニー管弦楽団  
曲目 ブラームスノハンガリー舞曲 第1、6、5番  
メンデルスゾーンノヴァイオリン協奏曲 ホ短調  
ベルリオーズノ幻想交響曲  
料金 S:14,000円ノA:11,800円ノB:9,700円ノC:7,500円ノD:5,400円  
問合せ ジャパン・アーツびあ 03-5774-3040

Playhouse

**A** ～2日(日) 15:00開演 BOX

カミュー・ボワテル 「ヨブの話  
――善き人のいわれなき受難 L'homme de Hus」

構成・演出・振付・出演 カミュー・ボワテル  
料金 【全席指定】前売:4,000円ノ当日:4,500円ノ25歳以下:3,000円ノ65歳以上:3,500円ノ高校生以下1,000円  
※25歳以下、65歳以上、高校生以下は、東京芸術劇場ボックスオフィスにて前売のみ取扱い。(枚数限定・要証明書)  
問合せ 東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296



**B** 7日(金)～9日(日) BOX

芸劇dance  
勅使川原三郎×山下洋輔「up」

構成・振付・美術・照明 勅使川原三郎 出演 勅使川原三郎ノ佐東利穂子ノ山下洋輔  
料金 【全席指定】S:5,500円ノA:4,500円(当日+500円)  
25歳以下(A):2,500円ノ65歳以上(S):4,000円ノ高校生割引1,000円  
※25歳以下、65歳以上、高校生割引チケットは東京芸術劇場ボックスオフィスにて前売のみ取扱い。(枚数限定・要証明書)  
問合せ 東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296



**C** 21日(金)～23日(日) BOX

フェスティバル/トーキョー16  
「Woodcutters ― 伐採 ―」

脚本・美術・照明・演出 クリスチャン・ルバ  
原作 トーマス・ベルンハルト  
料金 【全席指定】前売:5,500円ノ当日:6,000円 ほか  
問合せ F/Tチケットセンター 03-5961-5209



**D** 29日(土)～11月13日(日) BOX

「かもめ」

作 アントン・チェーホフ  
翻訳・上演台本 木内宏昌 演出 熊林弘高  
出演 満島ひかりノ田中 圭ノ坂口健太郎ノ渡辺大知ノあめくみちこノ山路和弘ノ渡辺 哲ノ小林勝也ノ中嶋朋子ノ佐藤オリエ  
料金 【全席指定】S:8,000円ノA:6,500円ノ65歳以上(S):7,000円ノ25歳以下(A):3,500円ノ高校生割引1,000円  
※25歳以下、65歳以上、高校生割引チケットは東京芸術劇場ボックスオフィスにて前売のみ取扱い。(枚数限定・要証明書)  
問合せ 東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296



Theatre East

**A** ～20日(木) BOX

RooTS Vol.04  
「あの大鴉、さえも」

作 竹内統一郎 上演台本 ノゾエ征爾 演出 小野寺修二 出演 小林聡美ノ片桐はいりノ藤田桃子  
料金 【全席指定】前売:6,000円ノ当日:6,500円ノ高校生割引1,000円ノ25歳以下:3,000円ノ65歳以上:5,500円  
※65歳以上、25歳以下、高校生割引チケットは、東京芸術劇場ボックスオフィスにて前売のみ取扱い。(枚数限定・要証明書)



○＝視覚障害者のための「舞台説明会」  
◎＝聴覚障害者のための「ボータブル字幕機提供」(要予約)  
▲＝収録のため場内にカメラが設置されます。

Theatre West

**A** 1日(土)～30日(日) BOX

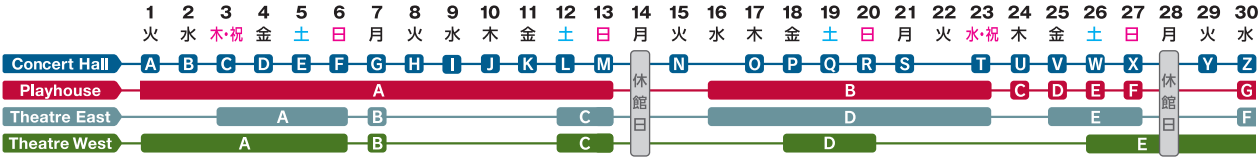
バルコ・プロデュース公演「星回帰線」

作・演出 蓬萊竜太  
出演 向井 理ノ奥貫 薫ノ野波麻帆ノ高橋 努ノ岩瀬 亮ノ生越千晴ノ平田 満  
料金 【全席指定】7,500円ノレビュー公演:4,000円 ほか  
問合せ バルコ 03-3477-5858



※レビュー公演





Concert Hall 音楽略号:指揮(Cond)ノソプラノ(S)メソソプラノ(Ms)ノアルト(A)ノテノール(T)ノバリトン(Br)ノバス(Bs)ノコーラス(Chor)ノヴォーカル(Vo)ノピアノ(Pf)ノチェンバロ(Cemb)ノオルガン(Org)ノヴァイオリン(Vn)ノヴィオラ(Va)ノ

BOX 東京芸術劇場ボックスオフィスにてチケットお取り扱いのある公演(取扱のない券種もございます)

東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296 休館日を除く 10:00～19:00 ※プログラム、出演者等に変更が出る場合がございます。最新情報は、各お問合せ先までご確認ください。

休館日 | 14日(月)・28日(月) 東京芸術劇場ホームページ www.geigeki.jp ※原則未就学児のご入場はお断りしています。

A 1日(火) 19:00開演 BOX

東京芸術劇場 Presents プラスウィーク 2016  
ブラック・ダイク・バンド

出演 ニコラス・チャイルズ(Cond)ノブラック・ダイク・バンド

曲目 【第1部】  
ケイノクインズパリー  
クレイアムノ深紅と黄金の交響曲 ほか

【第2部】  
プライス編曲ノシング・シング・シング  
ロヴァット＝クーバーノファイヤー・イン・ザ・ブラッド ほか

料金 【全席指定】5,400円ノ学生:2,700円

問合せ ジャパン・アーツびあ 03-5774-3040

B 2日(水) Closed・関係者のみ

跡見学園中学校 高等学校  
ゴートイエ・カプソン&フランク・ブラレイ  
チェロ・リサイタル

C 3日(木・祝) 14:00開演 BOX

新交響楽団 第235回演奏会

出演 山下一史(Cond)ノ新交響楽団

曲目 吉松 隆ノ鳥のシンフォニア「若き鳥たちに」  
伊福部 昭ノシンフォニア・タブカーラ  
ブラームスノ交響曲第1番

料金 S:3,000円ノA:2,500円ノB:1,500円

問合せ コンサートイマジン 03-3235-3777

D 4日(金) 19:00開演 BOX

アマラウ・ビエイラ ピアノ・リサイタル

出演 アマラウ・ビエイラ(Pf)

曲目 ベートーヴェンノピアノノソナタ 第8番「悲愴」  
ピアノノソナタ 第14番「月光」  
ピアソラノ「アディオス・ノーニー(タンゴラプソディー)」ほか

料金 S:4,500円ノA:4,000円ノB:3,500円

問合せ MIN-ONインフォメーションセンター 03-3226-9999

E 5日(土) 14:00開演 BOX

明治ブルガリアヨーグルト PRESENTS  
名曲の花束  
～ソフィア・ゾリステン&リャ・ベトロヴァ～

出演 プラメン・デュロフ(Cond)ノリャ・ベトロヴァ(Vn)ノソフィア・ゾリステン

曲目 エルガーノ愛のあいさつ  
シュベルトノアヴェ・マリア  
サラサテノツイゴイネルワイゼン ほか

料金 S:5,000円ノA:4,000円ノB:3,000円

問合せ チケットスペース 03-3234-9999

F 6日(日) 14:00開演

白金フィルハーモニー管弦楽団  
第25回定期演奏会

出演 汐澤安彦(Cond)ノ白金フィルハーモニー管弦楽団

曲目 ベルリオーズノ幻想交響曲  
ドリーブノバレエ音楽「コッペリア」より抜粋  
ヴェルディノ「運命の力」序曲

料金 【全席指定】1,000円

問合せ 白金フィル事務局 090-6475-9685

G 7日(月) Closed・関係者のみ

城西大学附属城西中学・高等学校  
第39回音楽祭

H 8日(火) 19:00開演 BOX

一青窈 with ブラハ国立歌劇場管弦楽団

出演 リハルト・ハイン(Cond)ノ一青窈(Vo)ノ  
ブラハ国立歌劇場管弦楽団

料金 S:8,500円ノA:7,000円

問合せ サンライズプロモーション東京 0570-00-3337

I 9日(水) 11:30開演 BOX

前橋汀子 デイライト・コンサート Vol.4  
～10人編成の弦楽アンサンブルと～

出演 前橋汀子(Vn)ノ森下幸路(Vnノコンサートマスター)ノ岡本伸一郎(Vn)ノ  
廣岡克隆(Vn)ノ佐田正秀(Vn)中村洋乃理(Va)ノ小倉萌子(Va)ノ  
門脇大樹(Vc)ノ中西哲人(Vc)ノ前田芳彰(Cb)ノ重岡麻衣(Cemb)

曲目 ヴィヴァルディノ「四季」より「春」、「夏」  
J.S.バッハノG線上のアリア  
愛のメドレー(丸山貴幸編)  
エドピス・プレスリーノ「ラブ・ミー・テンダー」、「愛さずにはいられない」  
エディット・ピアフノ「愛の賛歌」ほか

料金 【全席指定】2,500円

問合せ カジモトイープラス 0570-06-9960

J 10日(木) 18:30開演 BOX

「東欧音楽科支援」東日本大震災チャリティーコンサート  
日本・ブルガリア・ポーランド文化交流演奏会

出演 及川光悦(Cond)ノモーツァルトヴァルトゥオーゾ祝祭管弦楽団

曲目 ガリナ・コンチャエヴァ・ミルcheヴァ(Vn)ノビョートル・ノヴァク(Pf)

曲目 プルッフノヴァイオリン協奏曲第1番  
チャイコフスキーノピアノ協奏曲第1番、交響曲第6番「悲愴」

料金 S:6,000円ノA:5,000円ノB:4,000円

問合せ 日本音楽文化交流協会 03-3442-2325

K 11日(金) 19:00開演 BOX

立教大学交響楽団 第107回定期演奏会

出演 田中一嘉(Cond)ノ立教大学交響楽団

曲目 ベートーヴェンノ劇音楽「エグモント」序曲  
スメタナノ連作交響詩「我が祖国」より「モルダウ」  
ラフマニノフノ交響曲第2番 ほか

料金 S:1,500円ノA:1,000円ノB:500円ノ車イス:1,000円

問合せ 立教大学交響楽団 080-6501-0137

L 12日(土) 18:00開演

青山学院管弦楽団 第109回定期演奏会

出演 清水宏之(Cond)ノ青山学院管弦楽団

曲目 ショスタコーヴィチノ交響曲第5番  
リムスキー＝コルサコフノスベーン奇想曲  
グリグノ歌劇「ルスランとリジドミラ」序曲

料金 【全席指定】1,000円

問合せ 青山学院管弦楽団事務局 070-1339-9389

M 13日(日) 14:00開演 BOX

東京イギンコンサート  
ベートーヴェン「第九」合唱付  
～Holiness・Comfortable and Enjoy～

出演 田中祐子(Cond)ノ梅岡絵美子(S)ノ杉山由紀(Ms)ノ  
又吉秀樹(T)ノ今井俊輔(Br)ノ東京交響楽団ノ成城合唱団

曲目 ベートーヴェンノ交響曲第9番「合唱付」

料金 S:7,000円ノA:6,000円

問合せ イギン広報室 03-5495-1911

N 15日(火) Closed・関係者のみ

危険ドラッグ撲滅都民大会

O 17日(木) 12:15開演 BOX

東京芸術劇場ランチタイム・  
パイプオルガンコンサート Vol.1 18

出演 山田由希子(Org)

曲目 N.ブルームスノプレリューティウム ホ短調  
G.ベームノコラール・バルティータ「喜べ、おお我が魂よ」  
J.S.バッハノコラール「天にましますわれらの父よ」BWV682  
モーツァルトノファンタジー ヘ短調 K.608

料金 【全席自由】500円

問合せ 東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296

P 18日(金) 15:00開演

第2回スマイル大合唱フェスティバル

出演 坂本和彦(Cond)ノとしまユング フェスタ オーケストラ

曲目 安田祥子ノ岡本知高ノ天満敦子  
威風堂々ノふるさとノ赤とんぼ ほか

料金 【全席指定】5,000円

問合せ 音楽で日本の笑顔を 03-6279-1689  
としま未来文化財団 03-3590-7118

Q 19日(土) 17:00開演 BOX

武蔵野合唱団 第49回定期演奏会

出演 下野竜也(Cond)ノ小林沙羅、佐藤優子(S)ノ平山莉奈(A)ノ  
青山 貴(Br)ノ武蔵野合唱団ノ読売日本交響楽団

曲目 ウォルトンノ「ベルシャザールの宴宴」  
ヴィヴァルディノ「グロリア」

料金 S:5,000円ノA:4,000円ノB:3,000円ノヤングシート:500円

問合せ 武蔵野合唱団 080-4811-4866

D 25日(金) 19:00開演

～CAFファイナリストたちとスペイン人舞踊手の華麗なる共演～  
「財団設立15周年記念  
第7回ビエンナーレ・  
フラメンコ・フェスティバル」

出演 スペイン人舞踊手:アレハンドロ・ララノ  
オスカル・マニエンザーネノサンティアゴ・エランソノ  
第7・8CAF フラメンコ・コンクール・ファイナリスト

芸術監督:小松原直子

料金 【全席指定】S:4,000円ノA:3,000円

問合せ スペイン舞踊振興MARUWA財団 03-5419-6513

R 20日(日) 15:00開演 BOX

東京芸術劇場&ミュージザ川崎シンフォニーホール共同企画  
第7回 音楽大学オーケストラ・  
フェスティバル

出演・曲目 上野学園大学(指揮:下野竜也)  
シェーンベルクノ主題と変奏 作品43b  
ラヴェルノラ・ヴァルスノ舞踏詩  
武蔵野音楽大学(指揮:時任康文)  
リムスキー＝コルサコフノ交響組曲『シェエラザード』  
東京藝術大学(指揮:高岡 健)  
ショスタコーヴィチノ交響曲第8番

料金 【全席指定】1回券 1,000円ノ通し券 3,000円(限定200セット)  
※通し券は、東京芸術劇場ボックスオフィス及びミュージザ川崎  
シンフォニーホールでの窓口販売及び電話予約のみの取扱い(前売のみ)。

問合せ 東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296

S 21日(月) Closed・関係者のみ

ブリヂストン吹奏楽団久留米 東京公演  
～創立60周年記念チャリティーコンサート～

T 23日(水・祝) 14:00開演 BOX

東京佼成ウインドオーケストラ  
第131回定期演奏会

出演 藤岡幸夫(Cond)ノ東京佼成ウインドオーケストラ

曲目 スパークノドラゴンの年  
リードノ音楽祭のプレリュード  
榊屋雅徳ノマゼランの未知なる大陸への挑戦 ほか

料金 S:6,000円ノA:4,500円ノB:3,500円ノC:1,000円

問合せ 東京佼成ウインドオーケストラ事務局 03-5341-1155

U 24日(木) 19:00開演 BOX

バリ管弦楽団

出演 ダニエル・ハーディング(Cond)ノジョシュア・ベル(Vn)ノバリ管弦楽団

曲目 プリテンノオペラ《ピーター・グライムズ》から 4つの海の間奏曲  
ブラームスノヴァイオリン協奏曲  
ベルリオーズノ劇的交響曲「ロメオとジュリエット」から(抜粋)

料金 S:26,000円ノA:22,000円ノB:18,000円  
C:13,000円ノD:9,000円ノプラチナ券:31,000円

問合せ カジモトイープラス 0570-06-9960

V 25日(金) 19:00開演 BOX

2016・2017海外オーケストラシリーズ  
パリ管弦楽団

出演 ダニエル・ハーディング(Cond)ノジョシュア・ベル(Vn)ノパリ管弦楽団

曲目 メンデルスゾーンノヴァイオリン協奏曲 ホ短調  
マーラーノ交響曲第5番

料金 S:26,000円ノA:20,000円ノB:16,000円  
C:11,000円ノD:7,000円ノSS:31,000円

問合せ 東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296

W 26日(土) 14:00開演 BOX

東京ニューシティ管弦楽団 第109回定期演奏会

出演 秋山和慶(Cond)ノルーステム・サイトクー・ロフ(Pf)  
東京ニューシティ管弦楽団

曲目 ラフマニノフノピアノ協奏曲第3番、交響曲第3番

料金 S:6,500円ノA:5,000円ノB:3,500円ノC:2,500円

問合せ 東京ニューシティ管弦楽団チケットデスク 03-5933-3266

X 27日(日) 14:00開演 BOX

東京都交響楽団 第818回定期演奏会

出演 大野和士(Cond)ノ東京都交響楽団

曲目 ビエール＝ロラン・エマール(Pf)ノ天羽明恵(S)  
ベルクノアルテンベルク歌曲集  
ラヴェルノ左手のためのピアノ協奏曲  
マーラーノ交響曲第4番

料金 S:7,500円ノA:6,500円ノB:5,500円ノC:4,500円ノEx:3,500円

問合せ 都響ガイド 03-3822-0727

Y 29日(火) 19:00開演

西本智実指揮 エルサレム交響楽団

出演 西本智実(Cond)ノドミトリ・ヤブロンスキー(Vc)ノ  
エルサレム交響楽団

曲目 ドヴォルザーク:チェロ協奏曲  
マーラーノ交響曲第5番

料金 S:12,000円ノA:9,500円ノB:7,000円ノC:5,000円

問合せ テンポアプリモ 03-5810-7772

Z 30日(水) Closed・関係者のみ

オカムラグランドコンサート2016

Playhouse

A ～13日(日) BOX

「かもめ」

※P10参照

11月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月
14:00													
18:00													
19:00	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

▲＝収録のため、場内にカメラが設置されます。  
◎＝聴覚障がいをお持ちの方に字幕提供ノ目の不自由な方への舞台説明会あり  
(要予約)

B 16日(水)～23日(水・祝) BOX

「扉の向こう側」

作 アラン・エイクボーン 翻訳 芦沢みどり 演出 板垣恭一

出演 辻 一帆ノ紺野まひるノ岸 祐二ノ泉見洋平ノ吉原光夫ノ一路真輝

料金 【全席指定】S:7,800円ノA:6,800円

問合せ キューブ 03-5485-2252(平日10:00～18:00)

C 24日(木) 19:00開演

「瀧川鯉昇・柳家喬太郎二人会“古典こもり”」

出演 瀧川鯉昇ノ柳家喬太郎 ほか

料金 【全席指定】前売当日 3,700円

問合せ 夢空間 03-5785-0380



アフタートークあり  
◆辻、紺野、岸、泉見、吉原、一路  
▲辻、紺野、一路

D 16日(水)～23日(水・祝) BOX

ONEOR8 新作公演  
「さようならば、いざ」

作・演出 田村孝裕

出演 中村 蒼ノ富田直美ノ恩田隆一ノ和田ひろこノ伊藤俊輔  
山口森広ノ小林美江ノ瓜生和成ノ永山智啓ノ片桐美穂

料金 【全席指定】前売:3,900円ノ当日:4,300円

問合せ ONEOR8 080-6577-1399

E 25日(金)～27日(日)

「裂け目と平和」

料金 【全席指定】前売:4,000円  
当日:4,500円

問合せ ドラスティックダンス"0" 03-5819-2515

F 30日(水)～12月4日(日) BOX

トム・プロジェクト プロデュース  
「挽歌」

作 古川 健 演出 日澤謙介

出演 安田成美ノ鳥山昌克ノ岡本 篤ノ浅井洸ノ  
大鶴美仁音ノ高橋長英

料金 【全席指定】前売:5,000円ノ当日:5,500円 ほか

問合せ トム・プロジェクト 03-5371-1153

Theatre East

A 3日(木・祝)～6日(日) BOX

フェスティバル/トーキョー16  
「x/groove space」

振付・構成 セバスチャン・マティアス ★＝ポスト・パフォーマンストークあり

料金 前売:3,500円ノ当日:4,000円 ほか ※観客席はございません。

問合せ F/Tチケットセンター 03-5961-5209

B 7日(月) 19:00開演

「立川談笑独演会」

料金 【全席指定】前売当日:3,600円

問合せ 夢空間 03-5785-0380

C 12日(土)・13日(日) 10:00開演 無料

第39回東京都高等学校文化祭演劇部門中央大会  
第70回東京都高等学校演劇コンクール中央発表会

入場無料(事前予約制)

問合せ 東京都立深川高等学校 03-3649-2101

Theatre West

A 1日(火)～6日(日) BOX

「東京ゲゲゲイ歌劇団」

演出 牧 幸孝(MIKEY from 東京ゲゲゲイ)

出演 東京ゲゲゲイ

料金 【全席指定】5,000円 ほか

問合せ パルコ 03-3477-5858

B 7日(月) 19:00開演 BOX

《嘶小屋 in 池袋》  
霜月の独り看板 蜷気楼龍玉

～三遊亭圓朝 作「緑林門松竹」通し口演

料金 入場無料(事前予約制)

問合せ 東京都深川高等学校 03-3649-2101

C 12日(土)・13日(日) 10:00開演 無料

第39回東京都高等学校文化祭演劇部門中央大会  
第70回東京都高等学校演劇コンクール中央発表会

料金 入場無料(事前予約制)

問合せ 東京都深川高等学校 03-3649-2101

D 18日(金)～20日(日)

東京芸術祭2016  
アジア舞台芸術人材育成部門

問合せ アジア舞台芸術祭実行委員会事務局 03-5388-3150

E 26日(土)～12月4日(日) BOX

「三代目、りちやあど」(日本語、英語、インドネシア語上演ノ日本語英語字幕)

作 野田秀樹 W・シェイクスピア「リチャード三世」(小田島雄志訳)より

演出 オン・ケンセン

出演 中村孝太郎ノ茂山直司ノジャニス・コーノヤヤン・C・ヌールノイ・カデック・ブディ・スティアワノ/たきみきノ江本純子ノ久世星佳

料金 【全席指定】一般:5,500円ノ25歳以下:3,000円ノ65歳以上:5,000円ノ高校生割引:1,000円

問合せ 東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296

F 26日(土)～12月4日(日) BOX

「三代目、りちやあど」(日本語、英語、インドネシア語上演ノ日本語英語字幕)

作 野田秀樹 W・シェイクスピア「リチャード三世」(小田島雄志訳)より

演出 オン・ケンセン

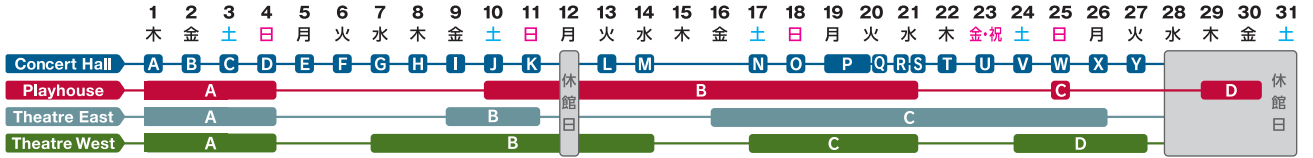
出演 中村孝太郎ノ茂山直司ノジャニス・コーノヤヤン・C・ヌールノイ・カデック・ブディ・スティアワノ/たきみきノ江本純子ノ久世星佳

料金 【全席指定】一般:5,500円ノ25歳以下:3,000円ノ65歳以上:5,000円ノ高校生割引:1,000円

問合せ 東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296



12  
DEC



Concert Hall 音楽略号:指揮 (Cond) /ソプラノ (S) /メゾソプラノ (Ms) /アルト (A) /テノール (T) /バリトン (Br) /バス (Bs) /コーラス (Chor) /ピアノ (P) /チェンバロ (Cemb) /オルガン (Org) /アコディオン (Acc) /ヴァイオリン (Vn) /ヴィオラ (Va) /

BOX 東京芸術劇場ボックスオフィスにてチケットお取り扱いのある公演 (取扱いのない券種もございます)

東京芸術劇場  
ボックスオフィス

0570-010-296

休館日を除く  
10:00～19:00

※プログラム、出演者等に変更が出る場合がございます。最新情報は、各お問合せ先までご確認ください。

休館日 | 12日(月)・28日(水)～31日(土)  
東京芸術劇場ホームページ [www.geigeki.jp](http://www.geigeki.jp)  
※原則未就学児のご入場はお断りしています。

A 1日(木) Closed・関係者のみ

オカムラグランドコンサート2016

B 2日(金) 18:00開演 BOX

東京音楽大学付属高等学校ユニセフ・チャリティーコンサート

出演 アンドレ・アンリ、広瀬宣行、坂本和彦、三原明人(Cond) / アンドレ・アンリ(Tp) / 砂田愛梨(S) / 小森輝彦(Br) / ドミトリー・フェイギン(Vc) / 東京音楽大学付属高等学校生徒・教員  
曲目 プティ・コルネットのための幻想的ボルカ「水のしたたり」  
レハール / 喜歌劇『メリー・ウィドウ』より  
サン＝サーンス / チェロ協奏曲第1番 ほか

料金 【全席指定】1,000円  
問合せ 東京音楽大学付属高等学校チャリティーコンサート係 03-3945-6214

C 3日(土) 15:30開演

区民でつくる演奏会  
「いっぽ・イッポ・み・ら・い・へXII」

出演 坂本和彦(Cond) / 藤原歌劇団ダイアモンドメンバー / 豊島区民合唱団 / ジュニア・アーツ・アカデミー / としま コング フェスタ オーケストラ ほか  
曲目 歌劇『カヴァレリア・ルスティカーナ』より  
夢人  
歌劇『椿姫』より「乾杯の歌」 ほか

料金 【一般】S:3,500円 / A:3,000円 / B:2,000円  
【友の会】S:3,000円 / A:2,500円 / B:1,500円  
問合せ チケット:としまチケットセンター 03-5391-0516  
公演:としま未来文化財団プランセクション 03-3590-7118

D 4日(日) 14:30開演

東京フロイデ合唱団 第19回演奏会

出演 小松長生(Cond) / 三井清夏(S) / 林 美智子(Ms) / 福井 敬(T) / 宮本益光(Br) / 東京フロイデ合唱団 / 日本フィルハーモニー交響楽団  
曲目 ベートーヴェン / レオノーレ序曲第3番・交響曲第9番「合唱付」  
料金 S:5,000円 / A:4,000円 / B:3,000円 / C:2,000円 / D:1,000円  
問合せ 東京フロイデ合唱団 03-5940-0731

E 5日(月) 19:00開演

武蔵野音楽大学管弦楽団演奏会

出演 ルドルフ・ピールマイヤー(Cond) / 神崎ゆう子(ナビゲーター) / オーディション合格者 / 武蔵野音楽大学管弦楽団  
曲目 オペラ・アリア・オペラ重唱  
ムソルグスキー(ラヴェル編) / 組曲『展覧会の絵』  
料金 【全席指定】1,500円  
問合せ 武蔵野音楽大学演奏部 04-2932-3108

Playhouse

A ~4日(日) BOX

りゅーとびあプロデュース  
「オフェリアと影の一座」

作 ミハエル・エンデ(岩波書店刊) 演出 小野寺修二  
出演 白石加代子 / 旺なつき / 彩吹真央 / 彩乃かなみ / 真瀬はるか / 館形比呂 / フィリップ・エマール / 大庭裕介 / 辻田暁 / 増井友紀子 / 藤田桃子 / 阿目虎南(大駱駝艦) / 宮本正也(大駱駝艦)  
料金 【全席指定】S:7,500円 / A:6,500円 / 25歳以下(A):3,500円 / 高校生割引:1,000円 問合せ MTP 03-6380-6299



B 10日(土)～21日(水) BOX

「ロミオとジュリエット」

作 ウィリアム・シェイクスピア 上演台本・演出 藤田貴大  
出演 青柳いづみ / 川崎ゆり子 / 菊池明男 / 小泉まさ / 豊田エリー / 吉田聡子  
料金 【全席指定】S:5,500円 / A:4,500円 / 65歳以上:5,000円 / 25歳以下:3,500円 / 高校生割引:1,000円 ※各種チケットは、東京芸術劇場ボックスオフィスにて前売りのみ取扱い。  
問合せ 東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296 (枚数限定・要証明書)



Theatre East

A ~4日(日) BOX

トム・プロジェクト プロデュース  
「挽歌」

作 古川 健 演出 日澤雄介 出演 安田成美 / 鳥山昌克 / 岡本 篤 / 浅井伸治 / 大鶴美仁音 / 高橋長英  
料金 【全席指定】前売:5,000円 / 当日:5,500円 ほか  
問合せ トム・プロジェクト 03-5371-1153



B 9日(金)～11日(日)

DANCE DANCE ASIA

問合せ バルコ 03-3477-5858

Theatre West

A ~4日(日) BOX

「三代目、りちゃあど」

※P12参照



B 7日(水)～14日(水)

「紅をさす」

作・演出 矢島弘一  
料金 【全席指定】前売:4,500円 / 当日:5,000円  
問合せ 東京マハロ事務局 050-3786-9086



N 17日(土) 14:00開演 BOX

読売日本交響楽団  
第193回土曜マチネーシリーズ

出演 マルクス・シュテンツ(Cond) / アガ・ミコライ(S) / 清水華澄(Ms) / デイヴィッド・バット・フィリップ(T) / 妻屋秀和(Bs) / 新国立劇場合唱団 / 読売日本交響楽団  
曲目 ベートーヴェン / 交響曲第9番「合唱付」  
料金 S:9,500円 / A:7,500円 / B:5,500円 / C:4,000円  
問合せ 読売チケットセンター 0570-00-4390

O 18日(日) 18:00開演

慶應義塾ワグネル・ソサィエティー男声合唱団  
第141回定期演奏会

出演 佐藤正浩(Cond) / 雨森文也(Cond) / 慶應義塾ワグネル・ソサィエティー男声合唱団  
曲目 男声合唱とピアノのための「ジブシーの歌」  
二つの祈りの音楽～男声合唱とピアノ連弾のための(男声版委嘱初演)  
オペラ『真珠採り』より  
料金 S:2,500円 / A:2,000円 / B:1,000円  
問合せ チケット担当 080-5524-9323

P 19日(月)・20日(火) 14:00開演 無料

芸劇ウインド・オーケストラ アンサンブル演奏会

出演 芸劇ウインド・オーケストラメンバー(19日・20日交代制)  
料金 無料(定員150名)  
問合せ 東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296

Q 20日(火) 19:00開演 BOX

パリ木の十字架少年合唱団

出演 パリ木の十字架少年合唱団 / ユーゴ・ギュティエス(音楽監督&オルガン)  
曲目 カッチーニ / アヴェ・マリア  
フォーレ / ラシーヌ讃歌  
デュリュフレ / いづくしと愛のあるところ  
サン＝サーンス / いけにえを捧げよ  
ダカン / クリスマス・カンタータ ほか  
料金 【全席指定】一般:4,000円 / ベア券:7,000円 / 25歳以下:2,000円  
※ベア券と25歳以下チケットは前売販売のみ取扱い。  
※25歳以下チケットは、東京芸術劇場ボックスオフィスのみ取扱い。  
公演当日チケット引換時要証明書提示。  
問合せ ムジカキアラ 03-6431-8186

C 25日(日) 10:00開演 無料

東京都特別支援学校第25回総合文化祭  
「舞台芸術・演劇祭」

出演 永福学園 / 青鳥特別支援学校 / 中野特別支援学校 / 町田の丘学園 / 志村学園 / 田無特別支援学校 / 水元小学園 / 板橋特別支援学校  
料金 【全席自由】入場無料 問合せ 東京都教育庁指導部管理課 03-5321-1111 / 内線 53-726

C 16日(金)～26日(月) BOX

移動レストラン  
ア・ラ・カルト ― 美味しいものは心を動かすところにある―

演出 吉澤耕一 台本 高泉淳子 音楽監修 中西俊博  
出演 高泉淳子 / 山本光洋 / 采澤靖起 / 中西俊博(Vn) / 竹中俊二(Gt) / プレント・ナッシー(B) / ゲストミュージシャン=バトリック・ヌジェ(Acc)  
料金 【全席指定】7,500円 / ※25歳以下:5,000円 / ※高校生割引:1,000円 ※サイドエリア ※25歳以上、高校生割引チケットは東京芸術劇場ボックスオフィスにて前売のみ取扱い (枚数限定・要証明書) 問合せ サンライズプロモーション東京 0570-00-3337(10:00～18:00)

C 17日(土)～21日(水) BOX

あやめ十八番 第七回公演「霓裳羽衣」

作・演出 堀越 涼 出演 二瓶拓也(花組芝居) ほか  
料金 【全席指定】前売:3,800円 / 当日:4,000円 / プレミアム席(最前部):4,500円  
問合せ あやめ十八番 090-7508-8629

R 21日(水) 11:00開演 BOX

芸劇 ブランチ・コンサート  
～清水和音と八塩圭子の名曲ラウンジ～

第5回「カルテットをやるう」弦楽器の魅力に迫る  
出演 清水和音(Pf) / 八塩圭子(ナビゲーター) / 藤江扶紀(1st Vn) / 大江馨(2nd Vn) / 佐々木亮(Va) / 富岡廉太郎(Vc)  
曲目 チャイコフスキー / アンダンテ・カンタービレ  
ハイドン / 「ひばり」・「セレナード」・「皇帝」より  
シューマン / ピアノ五重奏曲 ほか  
料金 【全席指定】2,200円  
問合せ サンライズプロモーション東京 0570-00-3337

S 21日(水) 19:00開演 BOX

日本フィル 第九特別演奏会2016  
(サンデーコンサートスペシャル)

出演 小林研一郎(Cond) / 石丸由佳(Org) / 市原 愛(S) / 林 美智子(Ms) / 錦織 健(T) / ジョン・ハオ(Br) / 東京音楽大学 / 日本フィルハーモニー交響楽団  
曲目 ベートーヴェン / 交響曲第9番「合唱付」 ほか  
料金 S:8,700円 / A:7,500円 / B:6,700円 / C:5,700円  
問合せ 日本フィルサービスセンター 03-5378-5911

T 22日(木) 19:00開演

大貫妙子 Symphonic Concert 2016

出演 千住 明(Cond) / 大貫妙子 / 東京ニューシティ管弦楽団  
料金 S:9,000円 / A:7,500円 / B:6,000円  
問合せ キョードー東京 0570-550-799

U 23日(金・祝) 14:00開演 BOX

都響スペシャル「第九」

出演 ヤクブ・フルシャ(Cond) / 森谷真理(S) / 富岡明子(A) / 福井 敬(T) / 甲斐栄次郎(Br) / 二期会合唱団 / 東京都交響楽団  
曲目 ベートーヴェン / 交響曲第9番「合唱付」  
料金 S:8,500円 / A:7,500円 / B:6,500円 / C:5,500円 / Ex:3,500円  
問合せ 都響ガイド 03-3822-0727

D 29日(木)・30日(金) 10:00開演

第32回 関東高等学校演劇研究大会

日替りゲスト  
I = 池田鉄洋  
K = 近藤良平  
S = 春風亭昇太  
M = 三谷幸喜  
Y = 山田見士  
R = ROLLY



D 24日(土)～27日(火) BOX

「ピアフ～私は何も後悔しない～」

作 森本ジュンジ 演出 小林七緒 出演 Setsuko / 佐藤正宏 / 伊藤俊彦 / 吉田宗洋 ほか  
料金 【全席自由】前売:4,700円 / 当日:5,000円 / ベアチケット(12/24・25のみ):9,000円  
問合せ ファーストピック 044-833-7726





10・11・12  
OCT NOV DEC

東京芸術劇場ホームページ [www.geigeki.jp](http://www.geigeki.jp)

Gallery 1 (5F)						
10	9月28日(水)～10月2日(日) 無料 Gallery 1・2 同時開催 第13回 東京書藝展 問合 東京書芸協会事務局 042-345-6889	4日(火)～8日(土) 無料 紙画 智彩会展 問合 菅野 048-833-2075	9日(日)～12日(水) 無料 宮内恵子とキルト塾生による 花のキルト展 問合 笹野 042-323-7747	15日(土)～16日(日) 無料 Gallery 1・2 同時開催 公益社団法人松風花道会 創流百周年記念花展 問合 松風花道会 03-5940-2918	19日(水)～24日(月) 無料 Gallery 1・2 同時開催 第30回紅霧書展・ 第33回書藝選抜展 合同開催 問合 東京書道教育会 03-5770-6811	26日(水)～29日(土) 無料 第19回 公募インテリアの書展 問合 岩田 090-3007-4728 049-284-4311
	10月31日(月)～11月3日(木) 無料 楽書会書展 第15回東京展 問合 加藤 080-5672-1168	4日(金)～8日(火) 無料 Gallery 1・2 同時開催 としま区民芸術祭 豊島区総合美術展 問合 としま未来文化財団 みらい文化課プランセクション 03-3590-7118	10日(木)～13日(日) 無料 Gallery 1・2 同時開催 駒澤大学書道部第50回書作展 問合 宮下 080-2245-2935	15日(火)～17日(木) 無料 第2回現代きりえ作家展 問合 持永 090-8082-1672	19日(土)～21日(月) 無料 星雲大師 一筆字展 問合 NPO法人国際ブリアー 03-5966-9037	23日(水・祝)～27日(日) 無料 Gallery 1・2 同時開催 第29回東京都高等学校 文化連盟書道展 問合 都立江北高校定時制 矢口 03-3880-3413
12	11月30日(水)～12月4日(日) 無料 十人十色百練百輪 栄美子戸田ロープとニューゼファーズキルト展 問合 ニューゼファーズ事務局 三沢 042-491-0797	7日(水)～10日(土) 無料 第4回 日本キルンアート協会 コンクール&作品展 問合 日本ヴォーグ社 03-5261-8265	14日(水)～17日(土) 無料 第35回 肢体不自由児・者の美術展 問合 吉原 03-5995-4511	19日(月)～23日(金・祝) 無料 心に響く秀作展 ～若冲生誕300年を記念して～ 問合 藝術出版社 03-3464-4451		

Gallery 2 (5F)						
10	9月28日(水)～10月2日(日) 無料 Gallery 1・2 同時開催 第13回 東京書藝展 問合 東京書芸協会事務局 042-345-6889	5日(水)～8日(土) 無料 第4回 心和書道会小品展 問合 庭野 090-3505-2082	9日(日)～12日(水) 無料 「サバンナを訪ねて」写真展 問合 伊室 03-3311-9715	15日(土)～16日(日) 無料 Gallery 1・2 同時開催 公益社団法人松風花道会 創流百周年記念花展 問合 松風花道会 03-5940-2918	19日(水)～24日(月) 無料 Gallery 1・2 同時開催 第30回紅霧書展・ 第33回書藝選抜展 合同開催 問合 東京書道教育会 03-5770-6811	25日(火)～30日(日) 無料 現代水墨画 今岡紫雲英 グループ墨展 問合 今岡 0494-75-4525
	11	1日(火)～4日(金) 無料 キルトリーダーズ東京 作品展 問合 及川 042-427-7150	6日(日)～8日(火) 無料 Gallery 1・2 同時開催 としま区民芸術祭 豊島区総合美術展 問合 としま未来文化財団 みらい文化課プランセクション 03-3590-7118	10日(木)～13日(日) 無料 Gallery 1・2 同時開催 駒澤大学書道部第50回書作展 問合 宮下 080-2245-2935	23日(水・祝)～27日(日) 無料 Gallery 1・2 同時開催 第29回東京都高等学校 文化連盟書道展 問合 都立江北高校定時制 矢口 03-3880-3413	
12	22日(木)～23日(金・祝) 無料 巣鴨学園美術書道作品展 問合 巣鴨学園 03-3918-5311					

Atelier East (B1F)						
10	9月28日(水)～10月2日(日) 無料 第13回 アートるるの会作品展 問合 鈴木 048-478-7735	4日(火)～8日(土) 無料 第3回 FAA新鋭作家展 問合 梁山 04-7131-4591	10日(月・祝)～12日(水) 無料 Atelier East-West同時開催 錦花池坊 「いけばな錦花展—2016—」 問合 加藤 090-8492-9853	13日(木)～16日(日) 無料 第37回 日書振書道展 IN【東京芸術劇場アトリエイースト】PART1 問合 日本書写書道振興会(文書館内) 03-3918-5351	19日(水)～11月6日(日) 一部有料 F/Tテーブル 問合 フェスティバル/トーキョー 実行委員会事務局 03-5961-5202	
	11	7日(月)～13日(日) 無料 第7回「銅の会」銅版画展 問合 木村 090-7943-0319 03-3728-0528	15日(火)～19日(土) 無料 Atelier East-West同時開催 第七回 ART CONFUSE展 問合 日本美術会 03-5842-5665	20日(日)～23日(水・祝) 無料 藝文東京ビエンナーレ 問合 野尻 03-3908-6533	24日(木)～27日(日) 無料 第一回彩心展 ～絵画教室アートスタジオ・セト 木曜・原クラス展示会～ 問合 原 090-3688-2612	29日(火)～12月5日(月) 無料 ギャラリー大作戦39 問合 小関 090-2167-8152
12	7日(水)～11日(日) 無料 Atelier East-West同時開催 第5回「つながる。陸前高田と立教大学」交流展 ～3.11東日本大震災を忘れないために～ 問合 立教大学社会連携教育課 03-3985-2204	13日(火)～18日(日) 無料 フォトクラブ・ゼルコバ 第2回写真展 問合 堀江 090-3902-2750	20日(火)～23日(金・祝) 無料 書蔵の会 臨書展 問合 書蔵の会 080-4179-9615	24日(土)～27日(火) 無料 第31回童心会書展 問合 太田 03-3965-2243		

Atelier West (B1F)						
10	9月28日(水)～10月2日(日) 無料 サロンDEポンドール会員展 問合 浜崎 03-5932-1518	5日(水)～8日(土) 無料 第24回希風会書作展 問合 庭野 090-3505-2082	10日(月・祝)～12日(水) 無料 Atelier East-West同時開催 錦花池坊 「いけばな錦花展—2016—」 問合 加藤 090-8492-9853	14日(金)～16日(日) 無料 第三回 酒井康堂・子遠一門会 忘形印社展 問合 周 080-6670-0567	19日(水)～23日(日) 無料 第18回 愚山会書展 問合 東京書道教育会 03-5770-6811	26日(水)～30日(日) 無料 キルトファーム新作展 2016 問合 藤井 090-9649-0062
	11	1日(火)～8日(火) 無料 旅をしぞ思ふ ——戦前の船はがきにみる東アジアの都市景観 問合 学習院大学国際研究教育機構 03-5992-1248	9日(水)～13日(日) 無料 第31回 新生会展 問合 加山 03-3930-2035	15日(火)～19日(土) 無料 Atelier East-West同時開催 第七回 ART CONFUSE展 問合 日本美術会 03-5842-5665	20日(日)～23日(水・祝) 無料 2016書TEN—糧— 問合 多田 042-565-1862	24日(木)～27日(日) 無料 第24回銅版画展 問合 志村 03-3939-2417
12	7日(水)～11日(日) 無料 Atelier East-West同時開催 第5回「つながる。陸前高田と立教大学」交流展 ～3.11東日本大震災を忘れないために～ 問合 立教大学社会連携教育課 03-3985-2204	14日(水)～18日(日) (予定) 紛争地域から生まれた演劇シリーズ8 ～ベルギー、イラン～ 料金 有料 事前申込み 問合 国際演劇協会日本センター 03-3478-2189	19日(月)～23日(金・祝) 無料 グループ恵展 第40回記念展 問合 大野 090-1254-1409			

東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296 (休館日を除く10:00～19:00)

あつまれ! 池袋みんなの大道芸 無 料  
9月～11月の週末 劇場前広場 詳細はHPへ



ユキンコアキラ

選りすぐりのストリートパフォーマーによる「集まれ! 池袋みんなの大道芸」をゴールデンウィークに引き続き開催します。パントマイム、コメディ、ジャグリング、ウォーキングアクトなど、劇場前広場が大道芸で染まります。

【お問合せ】東京芸術劇場 事業調整係  
03-5391-2116

ストリートアーティスト・アカデミー2016冬期  
11月～12月の毎火・木曜 リハーサルルーム 詳細はHPへ



第一線で活躍する大道芸人を講師に、ストリートパフォーマーを育成するワークショップを開講します。切磋琢磨し、芸を磨きたいパフォーマー大募集!! 開催日のお昼には参加者によるパフォーマンスを劇場前広場でご覧いただけます。

【お問合せ】東京芸術劇場 事業調整係  
03-5391-2116

主催:東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)、豊島区  
東京都/アーツカウンシル東京(公益財団法人東京都歴史文化財団)

第5回「つながる。陸前高田と立教大学」交流展 ～3.11東日本大震災を忘れないために～ 無 料  
12月7日(水)～11日(日) アトリエイースト・アトリエウエスト 詳細はP15へ



陸前高田の現状と課題、立教大学による支援・交流活動を紹介

東日本大震災からおおよそ5年半。被災の記憶が日々風化していく現在、立教大学は震災前から交流のあった陸前高田市への支援活動を続けています。本展覧会では、当地の現状と課題を広く伝えると共に、学生を中心とした復興支援・交流活動を紹介します。陸前高田市の戸羽市長講演会など関連イベントも実施。

【お問合せ】立教大学 社会連携教育課:03-3985-2204

主催:立教大学 共催:陸前高田市/東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)

東京芸術劇場×ITI 紛争地域から生まれた演劇シリーズ8 ～ベルギー、イラン～  
12月14日(水)～18日(日)予定 アトリエウエスト 詳細はP15へ



「紛争地域から生まれた演劇7」(2015年)より『夕食の前に』  
©石澤知絵子

ITI(国際演劇協会日本センター)による「国際演劇年鑑」の調査・研究事業の一環として、同時代の優れた海外戯曲をリーディング公演とトークで紹介するシリーズ。今回は、イスラム過激派に加わるブリュッセル出身の移民二世の若者を描いた『ジハード』と、国外に出る自由のないイランの青年が驚きの手法で書いた世界的ヒット作『白いウサギ、赤いウサギ』を日本語初訳・初演でご紹介します。

上演作品 『ジハード Djihad』作:イスマエル・サイディ(ベルギー)  
『白いウサギ、赤いウサギ White Rabbit, Red Rabbit』作:ナシーム・スーリーマンブア(イラン)  
※各回上演終了後トークを実施予定。

【料金】全席自由1,500円(各回とも) 【お問合せ】国際演劇協会日本センター 03-3478-2189 [www.iti-japan.or.jp/](http://www.iti-japan.or.jp/)

主催:文化庁/公益社団法人国際演劇協会日本センター 共催:東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)

芸劇ウインド・オーケストラ アンサンブル演奏会 無 料 ※各回定員150名  
12月19日(月)・20日(火) 14:00開演 コンサートホールエントランス(5F) 詳細はP14へ



2014年アンサンブル演奏会より

東京芸術劇場が2014年度から開催している「芸劇ウインド・オーケストラ・アカデミー」は、若手音楽家のための育成プログラムです。3年目を迎え、池袋を中心にますます盛んな活動を広げています。「アンサンブル演奏会」は少人数の編成による演奏のため、一人一人の雄姿を見ることのできる貴重な機会です。2月の芸劇ウインド・オーケストラ第3回演奏会を前に、新たに加わった7名の3期生を含めた計41名による、澆刺とした演奏をぜひお聴きください。

出演:芸劇ウインド・オーケストラ メンバー ※19日・20日で出演メンバーの入れ替えがあります。

【お問合せ】東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296

主催:東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)





VOICE.17

ONE'S  
voice

野田秀樹 × アイタイヒト

野  
田  
秀  
樹

ロ  
ベ  
ール・ル  
パ  
ー  
ジュ

## 身体、言語、記憶・・・ 演劇の可能性を追い求めて

今世紀における最も重要な舞台演劇人の一人と言われる、  
ケベック出身の演出家ロベール・ルパージュ。  
彼が作・演出・美術・出演をつとめる半自伝的な  
一人芝居『887』が、6月、東京芸術劇場で日本初演され、  
互いにリスペクトし合う野田芸術監督とルパージュ氏の対談が実現した。



「887」東京公演より

### 俳優はある意味、文化を保存する存在

野田 『887』、素晴らしかったです。観ながら色々なことを考えました。ここまで自分の人生を直接的に出した作品は初めてですね？

ルパージュ ええ、初めてです。自分で自分を演じていますし、非常に個人的な作品になっています。

野田 面白いのは、それでいて鏡のように、観客の頭の中にそれぞれの人生の記憶の断片も浮かんでくること。ルパージュさんと同世代ということもあるんだろうけど、僕もその時々自分の人生に思いを巡らせました。

ルパージュ 嬉しいです。でも実を言うと、この作品に描かれていることはすべて真実ではあるけれど、事実とはちょっと違う部分もあるんです。

野田 でしょうね。ルパージュさんが、僕にもすぐ覚えられる4人の詩人の名前を、日本に関係した言葉にこじつけて覚えるくだりとか、絶対に嘘だ！と思いつつながら観てました(笑)。

ルパージュ 演劇である以上、嘘は必要ですからね。こどもの頃住んでいたアパートの住人たちの実名を変えたり、気取った自叙伝になってしまわないように、自分の欠点や性格上の問題もあえて見せてバランスを取ったり……。要は、演劇を作るためにちょっと嘘をついて、真実を再構成している。この形式を、私は“オート・フィクション”と呼んでいます。

野田 僕も一度だけ“ノンフィクション演劇”という名で自分の話を書いたことがあります。

ルパージュ どういう作品ですか？

野田 『Right Eye』という三人芝居(98年12月～99年1月／NODA・MAP番外公演)。タイトルは“右目”という意味と同時に“正義の目”という意味を持っていて、左目であるLeft Eyeは同時に“残された目”でもある。というのも、僕は30歳ちょっとのときに右目の視力がなくなったんです。そのときのことを人に話すと、みんな同情はするけど大笑いするくらい、あり得ないことが次々と起きちゃって。『Right Eye』は、そんな自分の出来事を発端に、あたかも接点があるかのように嘘をついて、カンボジアで殺された日本人報道カメラマン＝“正義の目”の話に持っていった芝居です。ルパージュさんが『887』を作ったきっかけは何ですか？ 劇中では、ある式典で暗唱することになった詩を覚えるために、こどもの頃に住んでいたアパートを思い出す……という展開になっていましたが。

ルパージュ 出発点はそのとおりで、詩がなかなか覚えられなかったことです。ただ実際に暗誦を頼まれたのは、別の詩でした。それを「SPEAK WHITE」に替えたのは、この詩に言葉の違いや階級差の問題といった、この物語を作

るすべての要素が入っていたからです。

野田 「SPEAK WHITE」が意味することが徐々にわかってくる感じがスリリングで、それがケベックだけでなく、どここの世界にもある「差」の問題だとわかった瞬間、とても胸に響きました。詩の暗唱を劇中劇としてライブで味わえるのも、演劇ならではの面白さだなと思いましたね。

ルパージュ ありがとうございます。でも、作品づくりの核になったのは、詩そのものより“記憶”というテーマでした。台詞覚えはいい方なのに、なぜこの詩は覚えにくいのだろう？ 記憶って、いったいどういう仕組みになっているんだろう？ と興味をそそられたのです。そもそも演劇は“記憶のスポーツ”のようなところがありますよね。よく役者へのお世辞で「すごいね。そんなに台詞を覚えられて」という言葉を聞くでしょう？

野田 聞きますね。居酒屋のおかみさんとかがよく口にしますよ(笑)。

ルパージュ たぶん、それが演劇の性質なんです。何かを記憶する、思い出すということが。かつてスペインのカタルーニャ地方では、スペイン全土を制圧した独裁政権によって本や戯曲がすべて焼かれ、それを記憶している俳優もことごとく殺されてしまったそうです。その話を聞いて、私は大きなショックを受けると同時に、俳優はある意味、文化を保存する存在なのだと改めて気づきました。私たち俳優の記憶が、その役割を担っているのだなど。

### 脳には今も大昔の習慣が残っている

野田 そうかもしれませんね。ただ、記憶力は年々衰えていくよねえ。

ルパージュ そこは我々年をとってきた俳優にとって、とても気になる問題ですね。こどもの頃に見た『ウルトラマン』のテーマ曲は今も鮮明に覚えているのに、今仕事をしている重要な人物の名前はすぐ忘れてしまう。

野田 困りますよね。どうしてだろう？

ルパージュ 記憶に関する科学書によると、実は人間の脳は、構造的には2,000年前とほとんど変わっていないそうです。私たちは今、20歳になっても30歳になっても仕事に関することを学び続けていますが、大昔の人間は、こどもの頃に親から生きていくための術を学習すると、後はさほど重要ではないことに脳を使ってきた。脳には今もその習慣が残っているので、人生の最初の5年か10年までのことを思い出すようにプログラムされているというんです。つまり私たちの脳は、そもそも現代社会に合っていないわけです。

野田 なるほど。でも、じゃあどうすればいいんだろう？

ルパージュ わかりません。ただ、モントリオールの世界的に有名な脳科学研究機関のある発表によると、ひとつの言語を話す人よりも複数の言語を





話す人のほうが認知症の発症が遅いそうです。しかも、母国語以外の言語を、年をとってから学べば学ぶほど、認知症を避ける手立てになるとか。たとえば、104歳まで生きたJ.F.ケネディ大統領の母・ローズさんは、亡くなるまでフランス語を勉強していて、晩年になっても記憶力が冴えていたそうです。

野田 俺もフランス語やるか……って、そういう話じゃないか(笑)。

ルパージュ (笑) 野田さんはもう外国語を学んで記憶力の訓練をしているじゃないですか。Bunkamuraシアターコクーンで野田さんの作品を観た際に初めてお会いしたときは、ひと言も英語を話されませんでした。その後、『THE BEE』のニューヨーク公演(2012年1月)を観に行って再会したときは、すでに英語がとても上手で驚きましたよ。

## 何が台詞覚えを左右するのか？

野田 記憶といえば、僕は自分が書いた台本の台詞をいつも同じところで間違える役者がいると、台詞が悪いのかなあと気になってしまふんです。そう言う、日本の役者は親切だから、だいたい「そんなことないです！」って答えるんだけど、よくよく話を聞くと、要は“この台詞をしゃべっていると、キャラクターとして前の台詞と矛盾しているような気がして”引っかかるとか、そういうことがある。

ルパージュ 面白いですね。台詞覚えを左右するその他の要因としては、テキストの音楽性、つまり台詞のリズムやトーンもあると思います。

野田 ああ、それはあるでしょうね。

ルパージュ さっき話した脳科学研究機関のレポートによると、台詞を覚えている最中の俳優の脳の状態を調べたら、文章を学習する際に働く部分よりも、音楽を学習する部分や感情の部分が活発に働いていたそうです。それで、シェイクスピアの戯曲をフランス語に翻訳して演じると、すごく覚えにくいでしょうね。リズムを重視して書かれている原文の音楽性が、フランス語に翻訳すると損なわれてしまうから。

野田 日本人でいうと、シラブル(音節)が5とか7だと覚えやすいというのがあります。ご存知かと思うけど、俳句も5・7・5だし、歌舞伎の台詞や演歌の歌詞にも七五調や五七調のものが多く。でもきつと、その心地よさは日本人特有のもので、外国人にはわからないんだろうな。それこそ、七五調の文章を

聞いたときの脳の状態を比べてみたいですね。

ルパージュ それは面白い。実は私は、言葉を学習することが非常に好きで、今回の『887』日本公演も、時間さえあれば日本語版を作り日本語で上演したいと思っていたんです。日本語は、25年ほど前、東京グローブ座の仕事で2か月半くらい東京に滞在した際に、かなり読めるようにもなりました。私は日本語を見ると、ビジュアルと音の両方のイメージを同時に感じて、そこに面白さといなる可能性を覚えます。表音文字のひらがな、カタカナと、表意文字の漢字という3種類の文字があり、しかもひとつの文章の中に混在している言語なんて、私の知る限りでは日本語くらいだと思います。

野田 そうかもしれない。ただ、今は文字を手で書くことが少なくなってしまったからね。たとえば“さんずい”なら“水”というように、漢字を手で書けばそこに意味を感じることができたけれども、今はキーボードで打ち込むと変換されてその漢字が出てくるから、漢字でありながら表音文字に近いものになってしまっていると思う。文字を書きつつ、無意識に意味を感じる瞬間を失いつつある。もったいないよね。僕は年をとったら、漢字をたくさん知ってるおじいちゃんとして、若い人たちから慕われたいですね。

ルパージュ いいですね(笑)。

## 演劇に夢見ていた全てがそこにあった

野田 日本の文化に興味を持ち始めたのは、いつ頃ですか？

ルパージュ 小さい頃からオリエンタルなものには興味があったと思います。もちろん当時は、大半の欧米人のように、アジアのどの地域の文化も一緒にたなイメージでしたが。歌舞伎を初めて知ったのは、17歳で演劇の学校(ケベック州立高等演劇学院)に入ってからです。そこで私は、演劇鑑賞旅行の実行委員になったんですが、その企画を立てる際に、モントリオールで歌舞伎公演があることを知りました。でも私を含めて、誰も歌舞伎を知らなかったもので、どういものなのか気になって、歌舞伎と文楽と雅楽を紹介する映像を取り寄せて学校で上映しました。そうしたら、内容はまったく理解できなかったけれども、とても楽しめたんです。それで学生全員分のチケットとパスを手配して、モントリオールまで公演を観に行きました。1975年か76年だったと思います。

野田 初めて観た歌舞伎はどうでした？

ルパージュ 大変な衝撃を受けました、私も同級生たちも。狐の話で、そこには、芝居、音楽、マジックのような仕掛け、絵画的美しさ、動き……私が演劇に夢見ていた全てがありました。でも若かったので、どうしてここまで自分が感動するのか、そのときは正直、わかりませんでした。

野田 じゃあ、きっと『義経千本桜』の狐忠信を観たんだね。その頃だったら、演じていたのは市川猿之助(現・猿翁)さんじゃないかな。

ルパージュ その後78年に、アリアヌ・ムヌーシュキン演出の『リチャード二世』を観た時も、卒倒しそうになるほど驚きました。彼女は歌舞伎や能や雅楽に非常に関心が高い人で、あれはまさしく西洋演劇と日本の演劇の出会いだったと思います。それほど革命的でした。それでさらに日本文化への興味は募りましたが、なにせケベックからは遠いし、何の伝手もありません。92年にロンドンで『真夏の夜の夢』を上演した際に、東京グローブ座のディレクターが観に来てくれて、「日本にこの作品を招聘したいので、まずは劇場

を観に来ませんか？」と言ってくださったことで、ようやく来日を果たしました。そのときの2週間の東京滞在は、確実に私の人生を変えましたね。

野田 僕は、ちょうどその年にロンドンに留学したんです。まさにその『真夏の夜の夢』を、ロンドンに到着したその日に観に行ったら、チケットが売り切れて入れなかった。代わりに観たミュージカルが最悪で(苦笑)、そんなこともあってよく覚えています。そういえば、ルパージュさんは『THE BEE』を2回も観てくれたんですよね。「もう1回来るよ」と言っても、まず来ないのが普通なので、驚いたし、嬉しかったですよ。

ルパージュ 『THE BEE』には現代的な日本演劇の要素と同時に、私が日本の伝統芸能に感じている“バロック的自由さ”も感じました。要は、あちからこれを取ってきて、こっちからこれを取ってきて、一緒に合わせても全然OKという自由さ。私はそこが好きなんです。

野田 まさに、それが歌舞伎なんだと思います。僕が初めて歌舞伎の仕事をしたときに、中村勘三郎(当時は勘九郎)に「歌舞伎って何？」と聞いたら、彼は真顔で「ほんと、何だろうね」と答えた。実際に彼と歌舞伎を作ってみて彼が至った答えは“どこから何を持ってきて何をしようか、それを歌舞伎役者がやったら歌舞伎になる”ということでした。だから、今のルパージュさんの日本の伝統芸能に対する指摘は、とても的確だと思いますね。

## 文化交流の架け橋になっていたら

ルパージュ 野田さんの次の公演はいつですか？

野田 来年1月に東京で新作を上演します。今ちょうどその台本を書いているところで、いちばん心も表情も沈んでいる時期ですよ(苦笑)。ルパージュさんの近々のご予定は？

ルパージュ プロジェクトはいくつかあって、自分でも驚きなのは、俳優としての活動が結構多いということ。この『887』でツアー中ですし、サド侯爵を演じている舞台作品もあります。その作品で、また日本に来られたらいいなと思っているんですが。クリエイションとしては、秋にニューヨークのメトロポリタン歌劇場で上演するオペラ、あとはムヌーシュキンの「太陽劇団」との共同制作で、来秋上演する新作を準備中です。

野田 ケベック・シティに、新しい劇場が作られると聞きましたが。

ルパージュ そうなんです。2018年の秋頃オープンの予定で、劇場名は『ディアマン(ダイヤモンド)』。シーズン制で作品を上演するスタイルにして、レパートリー作品もつくっていくつもりです。

野田 ルパージュさんはその劇場に、芸術監督という形で関わるの？

ルパージュ はい。私たちのカンパニーの作品も紹介しますし、若いサーカス・カンパニーの作品や、ちょっとしたオペラをやってもいい。国際的な場所にして、海外の劇団にもぜひ来てもらいたいなと思っています。

野田 じゃあ、そのうち僕の芝居も招いてもらえたりするのかなと聞けど、外野が言っていますが(笑)？

ルパージュ もちろんです！ ケベックの文化や、伝統芸能を含む日本の芸術文化に理解がある企業とも提携しながら、文化交流の架け橋になっていけたらと思っています。

取材・文：岡崎 香(演劇ライター)  
通訳：加藤リツ子 写真：渡部孝弘



### 今回のアイタイヒト

**ロベール・ルパージュ ROBERT LEPAGE**  
1957年カナダのケベック市生まれの演出家、劇作家、俳優、映画監督。1985年の『ドラゴン・トリロジー』で国際的脚光を浴び、以降、話題作を発表。日本でも数多くの作品が紹介され、また日本文化への造詣も深い。『HIROSHIMA-太田川七つの流れ』『月の向こう側』『アンデルセン・プロジェクト』『The Blue Dragon—ブルードラゴン』『Needles and Opium 針とアヘン』、シルク・ドゥ・ソレイユ『トータル・アート・オブ・ザ・ダンス』など代表作多数。世界のアートシーンを牽引し続けている。

### 野田秀樹 HIDEKI NODA

1955年、長崎県生まれ。劇作家・演出家・役者。東京芸術劇場芸術監督、多摩美術大学教授。東京大学在学中に「劇団 夢の遊戯社」を結成。92年劇団解散後、ロンドンへ留学。帰国後の93年に演劇企画製作会社「NODA・MAP」を設立。以来『キル』『赤鬼』『バンドラの鐘』『THE BEE』『ザ・キャラクター』『エッグ』『MIWA』『逆鱗』などの話題作を発表。歌舞伎『野田版 研辰の討たれ』の脚本・演出や、モーツァルト歌劇『フィガロの結婚～庭師は見た！～』の演出、海外での共同制作など、演劇界の枠を超え国内のみならず海外でも精力的な創作活動を行う。様々なアーティストとの文化混流による「東京キャラバン」を2015年よりブラジルや東北など国内外で展開。



### 江戸を舞台に野田秀樹が描く“勘三郎へのオマージュ”

「肉体を使う芸術、残ることのない形態の芸術」をモチーフに、生前に深い親交があり、東京芸術劇場では「表に出ろいっ!」(2010年)で舞台を共にした、故・中村勘三郎へのオマージュを野田秀樹が書き下ろします。  
“足跡姫”とは一体何者なのか？副題である“時代錯誤冬幽霊”の意味するものは？

作・演出：野田秀樹  
出演：宮沢りえ 妻夫木聡 古田新太 佐藤隆太 鈴木 杏 池谷のぶえ 中村扇雀 野田秀樹  
料金：S席9,800円／A席7,800円／サイドシート5,500円※  
※25歳以下の方は、東京芸術劇場ボックスオフィスでのみ、サイドシート3,000円にてご購入いただけます。(入場時要証明書)※未就学児はご入場いただけません。  
【お問合せ】NODA・MAP 03-6802-6681

**2016年12月10日(土)一般前売開始**

詳細はHPへ [www.nodamap.com/](http://www.nodamap.com/)  
[www.geigeki.jp/](http://www.geigeki.jp/)

企画・製作 NODA・MAP 主催：NODA・MAP 共催：東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)

# HIDEKI NODA × ROBERT LEPAGE





## ポーランド演劇の巨匠クリスチャン・ルパが初来日!

「境界を越えて、新しい人へ」をテーマに、フェスティバル/トーキョー16が今年も開催。

国内外の多様な舞台芸術に触れる58日間。

フェスティバル/トーキョーは、国境、世代、ジャンルを越えて多様な価値が出合いお互いに刺激しあうことで、新たな可能性を拓くことを目指す国際的な舞台芸術祭。第9回となる今回は、ヨーロッパ演劇をリードするポーランド現代演劇の巨匠、クリスチャン・ルパの日本初来日公演をはじめ、世界の舞台芸術シーンで大きな存在感を放つカンパニー、アーティストが結集。日本の舞台芸術シーンを牽引する演出家たちによる新作公演や、国境やジャンルを越えたパートナーシップに基づく共同製作、観劇体験を通じて歴史を見つめ直す作品に加え、東日本大震災の経験を踏まえて生みだされた表現も紹介される。

メイン・プログラムとなる『Woodcutters — 伐採 —』は、洗練された空間設計と深い教養に裏打ちされた鋭い批評性で知られるクリスチャン・ルパ演出の話題作。ルパは、タデウシュ・カントル、ピーター・ブルックにならぶ現代演劇界の巨匠として知られる演出家だ。オーストリアの作家トーマス・ベルンハルトによる同名の小説を翻案・演出した『Woodcutters — 伐採 —』の舞台は、自殺した女優の葬儀後に開かれた「アーティストック・ディナー」会場。女優の旧友たちであり、社会に翻弄され芸術的理想を忘れた過剰なエゴにまみれた芸術家たちが集う。友人の申いをよそに飲み続け、酔って互いの本音を吐露し、辛辣な批判や自虐、激しい怒りをぶつけ合う。出版当時のオーストリアにおける、理念を失った芸術や文化への痛烈な非難を、現代ポーランドの芸術と社会にも向けた本作は、経済効率に支配され、生活や環境が画

一化している現代において、国と芸術のあり方に警鐘を鳴らす。アヴィニオン演劇祭での成功など、世界の演劇ファンを魅了した上演時間4時間20分の大作を観られるのがフェスティバル/トーキョーならではの醍醐味だ。

今年注目のもうひとつの作品は、ドイツの振付家セバスチャン・マティアスの『x / groove space』。都市とその居住者が生み出すグルーブを浮かび上がらせるダンス作品だ。東京とドイツ・デュッセルドルフの2都市を拠点にリサーチを進め、現地アーティストとのコラボレーションを行なう今作は、舞台と客席という境界線が無く、来場した人や数によって、毎回異なるグルーブが生み出される。日本の現代美術家3名がクリエイションに参加し、彼らの個性が劇場という1つの空間で共有される試みは、本シリーズならではの魅力でもある。

フェスティバル/トーキョー16は、今年も『フェスティバルFUKUSHIMA! @池袋西口公園』で幕を開ける。多彩なライブとオリジナル音頭が生む祝祭は、いよいよ今年度でフィナーレを迎え、「池袋盆BAND」と、はっぴ姿の「盆踊り隊」が作り出す踊りの渦も見納めとなり、見逃せないプログラムのひとつだ。

国内外から集結する同時代の優れた舞台作品の上演を軸に、各作品に関連したトーク、映画上映などのプログラムを展開するフェスティバル/トーキョー16で、多彩な舞台芸術シーンのいまを感じてほしい。

### フェスティバル/トーキョー16

10月15日(土)~12月11日(日) 東京芸術劇場 ほか

10月15日(土)・10月16日(日) 池袋西口公園『フェスティバルFUKUSHIMA!@池袋西口公園』

総合ディレクション:プロジェクトFUKUSHIMA! + 山岸清之進

10月21日(金)~10月23日(日) プレイハウス『Woodcutters — 伐採 —』

翻案・美術・照明・演出:クリスチャン・ルパ 作:トーマス・ベルンハルト

11月3日(木・祝)~11月6日(日) シアターイースト『x / groove space』

振付・構成:セバスチャン・マティアス

10月19日(水)~11月6日(日) アトリエイースト『F/Tテーブル』

トーク・ワークショップ・上映会など、関連企画を実施予定

ほか多数ラインアップ

#### チケット取扱い

##### ●F/Tチケットセンター

03-5961-5209(12:00~19:00 定休日あり)

##### ●東京芸術劇場ボックスオフィス

0570-010-296(10:00~19:00 休館日を除く)ほか

#### 総合問合せ

フェスティバル/トーキョー実行委員会事務局

03-5960-5202

www.festival-tokyo.jp/

### としま国際アート・カルチャー都市発信プログラム

9月1日(木)~12月18日(日) あうるすぽっと、南池袋公園 ほか

総合問合せ 公益財団法人としま未来文化財団プランセクション  
03-3590-7118(平日10:00~17:00)

### アジア舞台芸術人材育成部門

11月18日(金)~11月21日(月) シアターウエスト ほか

総合問合せ アジア舞台芸術祭実行委員会事務局  
03-5388-3150

## I N F O R M A T I O N

鑑賞サポート 目や耳の不自由な方を対象に、舞台・公演説明会、字幕機提供サービス(無料・要事前申込)等を実施しています。詳細は事業ごとに異なります。

10~12月  
対象公演

ランチタイム・パイプオルガンコンサート Vol.118/RooTS Vol.04『あの大鴉、さえも』

東京芸術祭2016 芸術オータムセレクション『かもめ』/『ロミオとジュリエット』

【問合せ】東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296

# 工藤さん へんしん 10分前

活躍中の同窓生

市村正親

鶴山仁

大倉孝二

柿澤勇人

木野花

田中彰孝

田村孝裕

辻谷耕史

濱田めぐみ

平岩紙

福井晶一

蓬萊竜太

矢本悠馬

渡辺えり

ほか

<http://www.bugei.ac.jp>

舞台芸術学院

# 日本の建物・施設を 美しく、快適に——。

【NCS Network】

【北海道】札幌/稚内/帯広

【東北】仙台/福島

【関東甲信越】宇都宮/古河/高崎/甲府

【首都圏】東京(23区、三多摩)横浜/千葉/埼玉/熊谷

【東海中部】小田原/三島/富士/静岡/名古屋/三重

【関西】大阪/泉南/神戸/京都/奈良/和歌山

【中国四国】岡山/広島/高松

【九州沖縄】福岡/長崎/沖縄



日東工務店アル・サービス株式会社

<http://www.nitto-cs.jp/>

